LA SEMANTO

種蒔く人

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十一年十二月廿八日（印刷納本）
大正十二年一月一日發行（毎月一日一回發行）

5861
2144
no.17

行動と批判

第三年第三巻第十五號

BERKELEY
LIBRARY
UNIVERSITY OF
CALIFORNIA

ある日の夢
無產階級文化
ソレルの回想
表現派戲曲
鼠
自由人の生活

◇新年號◇

種蒔き社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

NIA DEKLARO

Iam antaŭe homoj kreis diojn. Sed homoj nun estas iliaj mortigintaj. La destino de l'kreitaĵoj estas fare de [illegible]

Nuntempe ne sintrovas dioj. [illegible] ĉe aliaj migraĵoj de dioj estas plenaj. Dioj diversaj estis mortigitaj. Kiuj ilin mortigis, estas ni; kaj kiuj ilin aprobas estas la mal-[illegible] [illegible] Dum ĉi [illegible] homoj [illegible] kontraŭ [illegible] Neniam estis inter ili la vojo de kompromiso; tie nur estas [illegible] de homoj. [illegible] vero [illegible] malvero.

Vero estas absoluta. Ni do diras pri la Vero, kiun [illegible] dioj ne diras. Homoj estas [illegible] homoj. [illegible] kasoj estas en [illegible] sub la lumo de Vero [illegible]

[illegible] —kune kun la kamaradoj en la tuta mondo!

La Semanto. (*T. [illegible]MAKIŜI*)

種蒔く人一月號目次

（題言）

赭土に芽ぐもの（表現座上演戯曲）……金子洋文

ソレルの回想……植田好太郎

科學と無產階級文化……武藤直治

ある日の夢……大守惠之助

只……前田河廣一郎

無產階級の教育的獨立（N M）——自由人の生活意識（光消）——決鬪を讀む（賢三）——淺草と百姓の生活（洋文）——前田河廣一郎氏の「三等船客」（淳二）——小林德三郎氏個展評（弘二）——プロレタリアの少年少女雜誌のために（小牧）——我が現代の子供雜誌を見て何う思ふか（三枝）——一房の葡萄（丈非）——ジュンサ（チンパチロー）

□世界欄——[illegible]欄……

□社會主義講座……

□エスペラント講座……

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リーブクネヒトの戰爭觀

現今の戰爭は國民の安寧を防禦するための戰爭でもなければ、又うちのめされた國民の自由の爲の戰爭でもなければ、民衆の利益の爲の戰爭でもない、プロレタリアートの見地からすれば資本主義及び絶體至上主義の利益の爲に政治上の壓迫經濟上の搾取、及び勞働階級の軍事的殺戮の最大限度の集中と强化を象徴するに過ぎない。

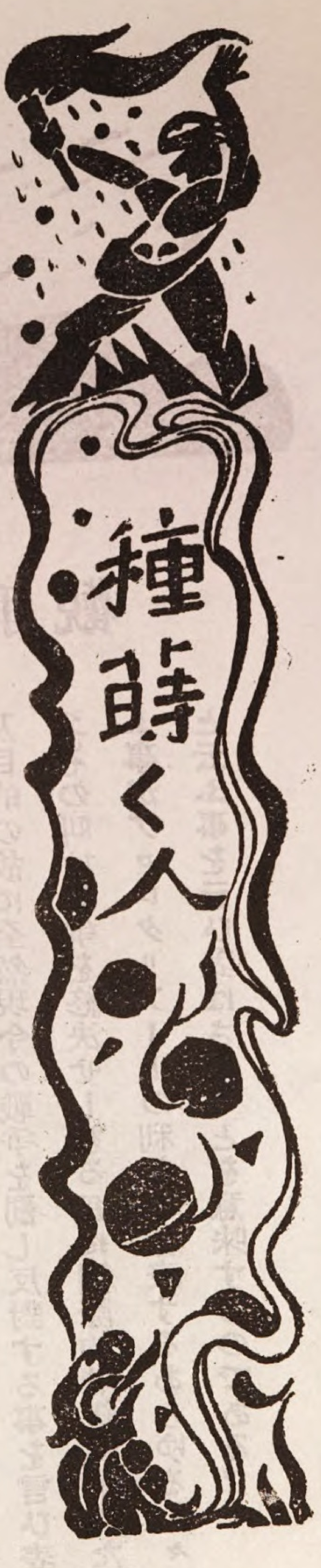
此の答としては、あらゆる國々の勞働階級は僅かに一つの答を與ふる事が出來るだけである。資本主義の政府、及びあらゆる吾々の支配階級に對して壓制及び搾取の廢棄の爲に、社會主義精神に於ける、平和によつて戰爭を終決せしむる爲め、より激しき鬪爭、國際的階級戰爭あるのみである。

『戰爭をやめろ！』と云ふ叫びは私が全然戰爭の歷史的本領の故に、戰爭の一般社會的原因及びその起原の特殊的形式の故に、戰爭の手段及目的の故に全然現今の戰爭を罰し反對する事を言ひ表す事を意味し又その叫は戰爭を終決せしむる爲に國際的階級鬪爭にたづさはると云ふ事がプロレタリアートの利益を代表するあらゆる人々の義務であると云ふ事を云ひ表はさんことを意味するのである。

東167817

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



赭土に芽ぐむもの

（表現座上演脚本）

（ある囚人の夢）

中西伊之助作
金子洋文脚色

人物

槇島（新聞記者）
金黄鎬（朝鮮の土人）
織田（囚人）
淺井（新聞記者）
時子（淫賣婦）
李召史（淫賣婦）
一之瀬（鑛夫）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

析　木（S鑛山の所長）

その他、鮮人、數名

所

朝鮮のある地方

場面（第一場）

牢獄の狹苦しい一室。

二人の日本人と十一人の鮮人がこの一室に鮨詰にされてゐる。

眞夏の夜、獄內の溫度は百十度以上あつてまるで蒸殺されさうである。鮮人はことごとく半裸體、人々のかすかな呻き聲が聞えてくる——暗い五燭の電燈がこの奇性な光景をてらしてゐる。

（この場面の會話は出來得るだけ靜かに取交はすこと）

鮮人甲。あいご、あいご。

鮮人乙。あいご、あいご、あいご。

織田。（苦しさうに）あふう、水を飮みたいな。

鮮人丙。あゝ苦しい

織田。全く地獄の釜にはいつてゐるやうな苦しさだ、槇島君、槇島君。

鮮人丁。あいご、あいご、あいご。

織田。いつでもよく眠つてゐる男だな、まだ就寢の鐘がならないのに、ぐつすり寢込んでゐる、いゝ夢でも見てゐるのかな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鮮人A。あいご、あいご。
鮮人B。あいご、あいご、あいご。
織田。（やれきれなくなつて）あゝ、あいご、あいごか、槇島はいゝ氣持で眠つてゐるし、左を見ても右を見ても鮮人の呻き聲だ、やれきれねえな。
鮮人C。あいご、あいご。
鮮人D。あいご、あいご。
織田。（苛々して）よぼ、その呻き聲をやめろ。
（シーンとなる、沈默）
織田。（反省して）おい、今言つたのは冗談だぜ、俺達は呻くでもなければ、呼吸がつけねえんだ……、おい兄弟、鐘がなるまで俺達の唄でもうたはうか
龍眼、茘枝、唐大棘
可愛いい郎君に皆あげた。
アララン、アララン、アラリーヨ
アララン唄つて、遊びましよ。』……
あいご、あいごと泣くなかれ
死んだ郎君は、歸りやせぬ
アララン、アララン、アラリーヨ
アララン唄つて遊びましよ』……
（織田がうたひ出すと、中途から一人二人寂しさうに、またうれしさうについてうたひ出す、そしてしまひには眠つてゐる槇島と

（金黃鎬をのこして皆でうたひつゞける、二回つゞける、うたひ終つて）

鮮人甲。あいご、あいご。

鮮人乙。あいご、あいご。

織田。俺はこの唄をうたひ出すと泣きたくなる、俺は朝鮮人が大好きだ、それだのに俺達は何故この兄弟を苦しめなけやならないんだ、あゝ、どいつも、こいつも皆悪黨ばかりだ。

鮮人丙。あいご、あいご。

鮮人丁。あいご、あいご。

織田。金黃鎬の小父さん、お前は何故うたはねえんだ。

金黃鎬。あいご、あいご。

織田。何うしたつて言ふんだ。（顏をさしのべて）お前泣いてゐるのか。

金黃鎬。あいご、あいご。

織田。小父さん、氣をしつかり持たなけや、いけねえよ、誰が何て言つたつて、お前のやうないゝ人間、死刑になるたんて馬鹿げた話があるものか、お前は裁判官に何もかも言はなけや駄目だよ。

金黃鎬。あいご、あいご。

織田。小父さんのやうないゝ人間が强姦殺人犯なんて、俺には何うしても考へられねえな、……お前本當にそんなことをやつたのかい。

金黃鎬。（無言）

織田。お前、また憤つたのかね、いゝよ、俺はもう二度とそのことは聞かないよ。

（沈默。この時かすれ切つた餘韻のない鐘がなる）

織田。ほら、就寢の鐘だ。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鮮人四五人。(うれしさうに)あいご、あいご。

(鮮人の一人が、うれしさうにてん〳〵と鐘の口眞似をする、すると皆も眞似る、やりきれない歡びだ、鐘がなり終る、沈默、この時突然槇島がむくりと起上る)

金黃鏞。(やゝおどろいて)槇島さん。

織田。槇島君、どうした。

槇島。今、誰か俺を呼ばなかつたか。

織田。いや、誰も呼ばないよ、君は夢を見てゐたのだらう。

槇島。いや、そんなことはない、たしかに俺を呼んだ者がゐる。

織田。だつて誰もゐないぢやないか、俺達は今皆で唄をうたつてゐたところだよ。

槇島。皆で唄をうたつたつて、そりや本當か。

織田。本當だとも。

槇島。皆つて、朝鮮の人達も一所か、

織田。さうさ、唄はないのは君と小父さんと二人だけさ。

槇島。本當か、ぢや君達は皆仲よしになつたんだな。

織田。さうさ、苦しんでゐる者は皆一所になるのがあたりまへさ、もう腹の底で啀合つたり、罵しり合つたりするものか

槇島。そいつは素的だ、(立上る)おい、俺達はこゝを逃げ出すことが出來るぞ。

鮮人三十人。(うれしさうに)あいご、あいご。

織田。(おどろいて)　逃げ出すつて、こんな頑丈な牢屋を何うして逃げ出すことが出來るんだね。

槇島。俺はそれを知つたんだ。

織田。おかしいな、君はまた夢を見てゐるのではないかね、俺達はこれまで幾度も逃出さうとして失策つてゐるんだぜ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

槇島。そりや俺達がまちがつてゐたから失策つたのさ、俺は今度こそ秘訣を知つたんだ。
織田。ぢや、何うするんだね。
槇島。俺達が皆兄弟になればいゝんだ、一人一人でなく團結すればいゝんだ。
織田。それだけで、俺達はこゝを飛出すことが出來るのかね。
槇島。さうとも、たつたそれだけだ。
織田。よし、ぢや、やつて見よう。
槇島。おい、皆、手を握り合つてくれ、立上つて手を握り合つてくれ。
鮮人達。あいご、あいご。
織田。しつ、靜かに。
金黃鎬。槇島さん、俺あには手錠があつて駄目だ、俺あを一人殘して行つてくんろ。
槇島。手錠だ、そんなやくざなものが恐しいものか、どれ、俺が切りとつてやる。
（槇島、手をかける手錠はガヂヤリと床におちる）
金黃鎬。あいご、あいご。
鮮人數名。あいご、あいご。
織田。しつ、靜かに。
槇島。いゝか、皆手を結んだか。
（槇島先登で牢獄の扉に手をかける。開かうとしたが開かない）
織田。やはり、駄目か。
槇島。（苛々して）手をはなしてゐる者がゐるな、誰だつ。
金黃鎬。槇島さん、俺あ、あの恐しい世の中に行くのはいやだ、俺あこゝで殺されたい、俺あを殘して行つてくんろ。

槇島。小父さん、そんなこと言つちや駄目だ、それぢや、皆助からねえぞ。

織田。馬鹿ッ。

鮮人二三人。馬鹿ッ、馬鹿ッ。

槇島。しつ、靜かに、さあいゝか、皆しつかり手を握り合つてくれ。

（扉に手をかける、扉は音なく開かれ、さつと眩しい光が室内にさし込んでくる、凡ての人間があつとおどろく、歡喜の聲）

織田。しつ、靜かにしろ、監守が來るぞつ。

（それから一人〳〵靜かに光の中に消えて行く。が、最後の金黃鎬が扉に出ようとしてばつたり床に倒れる、扉は音なくしまる、暗黒）

金黃鎬。あいご、あいご。

鮮人の聲。金黃鎬、金黃鎬。

織田の聲。早く逃げろ、早く逃げろ。

槇島の聲。小父さん、小父さん、何うした。

鮮人の聲。金黃鎬、金黃鎬。

金黃鎬。あいご、あいご。

——（黒い幕）——

場面（第二場）

暖かい甘い春の夜。黃色い月の光があやしい陶酔をそゝる。

丘の一體、日本人對手に朝鮮を旅から旅へへめぐつて歩いてゐる淫賣婦の天幕が二つ見える、左手の近くに一軒の料理店があつて、窓が眞赤に輝いてゐて、朝鮮の哀歌が家の中から聞えてくる。丘を越してはるかにF組のS鑛山一體の陰慘な光景が一眼に瞰下され

る、實に不思議な對照である。

わたしの可愛いゝ好ちやんが、
玉蜀黍の垣越しに、
忍んでくる夜に吠えついて、
邪魔する犬は仁王山の、
虎が出て來て喰ふて行け。

煙草飲め、飲め、
上等の煙草、
溫突一つぱい煙にしろ。

霜の夜明けの冷たい風に、
つれにはぐれて啼き行く雁よ、
眠る娘の眼をさまさずに、
思ふに男に文ことづけよ、
いかに無情ない獵師でも、
お前をねらひはしなからう。

（槇島が呆然して丘の方から出てくる）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

槇島。俺は一體何處から何處へ行くのだ。俺は牢獄から飛出して來たことは事實だ、俺はそのことをよく知つてゐる、だが、俺は何處へ行くのか、一體此處が何處なのか少しもわからない、たゞ、はつきりわかつてゐるのは牢屋を仲間と一所にとび出したとだけだ。その俺の仲間は何處へ消えてしまつたのだ。俺の傍には一人もゐない、それに俺はまるで百噸以上の幽鬱を背負つてゐるやうだ、俺には自由の翅がない、俺の心は苦しい、俺の足は重い、そして俺の唇は熱病患者やうに乾いてゐる、俺の眼は壁を塗られたやうに見えない……(急に)おゝこれは何うしたことだ、やれきれない、殺されさうだ、お母さん、俺を助けてくれ、大地よ、俺の手をしつかりつかまへてくれ。

(大地を抱くやうにして四つばひする、間もなく料理屋の哀歌が止んで賑かな、笑聲が聞えてくる)

槇島。(むくりと頭をもたげ)誰か笑つたな……ふゝん、俺を笑つたのか、それとも俺をかばつた大地を笑つたのか、(立上つて)だが、どつちでもいゝ、いくら俺を笑つたところで、俺のこの重い氣持が輕くなるものか。

(そこへ淺井が急いで登場)

槇島。あなたに、一寸聞きたいことがあるんですが。

淺井。おや、おや、(輕く笑ふ)

槇島。あなたも私を笑ふんですか。

淺井。だつて君おかしいぢやないか、芝居ぢやあるまいし、僕に他人言葉を使ふなんて。

槇島。(おどろいて)やあ、君は淺井君ですね。

淺井。何をそんなにおどろいてゐるんだね。

槇島。牢屋を出てから初めて君と合ふなんて、おどろくのはあたりまへぢやないか。

淺井。牢屋、初めて僕と合ふ……君はおかしなことばつかり言ふね、あはゝゝゝなる程、君は時子さんに會ふ前に、もうボウとなつてしまつたのだね。

槇島。わからない、實にわからない。

淺井。僕だつてわからないよ。
槇島。一體、こゝは何處なんだ。
淺井。狼子軍たちが天幕を張つてゐる丘さ、ほら見給へ、性慾に迷へる、羊達がウロ〳〵してゐるぢやないか。
（槇島おどろいて眼を見はる、すると四五人の黒い姿の人達が幻のやうに動き出し、天幕をのぞいてはかすかに今晩はと言つたり、鼠鳴きをしたり、おたのしみと言つたりする）
淺井。さあ、わかつたらう、わかつたらう、ゆつくり時子さんにお眼にかゝるさ、君が彼女を接吻せうが、抱擁せうが、あるひはそれ以上のことをせうが、それは一向差支へないことなんだ。兎に角、僕はお腹が空いてやれきれない、僕はあすこの料理店へ行つて、先づ胃の腑に滿足を與へなければいけない、すべてはそれからだ。
（行きかける）
槇島。おい、一寸待つてくれ、僕は君の言ふことは少しもわからないんだ、僕にもつと話してくれないか。
淺井。（遮つて）また始つた、もう澤山だよ、僕は腹がへつて〳〵たまらないんだ、かうして立つてゐて一口開くことさへ大苦痛なんだ、まあ一寸の間、君のおかしな眼つきと、質問から解放してくれ給へ。
（から言つて淺井は急いで料理店の戸口へはいつてしまふ）
槇島。（ぼんやり見送つて）俺はます〳〵わからない、俺の心はます〳〵重くなつて行く（料理店から音樂がきこえてくる）ふゝん、あいご〳〵の音樂が聞えてくるな、何處からだらう……だが、そんなせんさくは何うだつでいゝ。あの音樂は俺自身をうたつてゐるのだ、俺達不幸な兄弟すべての哀悼曲だ……あいご、あいご。
（つぶやいて腰を下ろす、この時突然天幕の中で叫ぶ女の聲がする）
女の聲。畜生ツ、出て行けつ、畜生ツ、
（槇島ぎよつとして立上る、女が轉げるやうに天幕の中から出てくる、その後から一人の男が出が出てくる）
時子。私は人間でない機械なんだよ、私は自分のつとめ以上のいろ〳〵な變な眞似は出來ないんだ、そんな眞似をして見

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たかつたら、奥さんでも、妻君でも貰ふといゝぢやないか、あの人達は人間だから、お前さんの言ふことはきつときくに違ひないさ、お前さんと私との取引はもうすんだのだよ、さつさと歸つてくれ。

（男無言で行きかける）

時子。一寸（ちよいと）（男立止る）お前さんおこつたの、おこつちやいやですよ、左樣なら、また何處かで會ひませう、さうね、多分地獄でせうよ。

（男無言で行つてしまふ、この時時子、槇島の姿を見つける）

時子。まあ、あなた槇島さんですね。

槇島。……

時子。あなたさつきから此處にゐたんですか。

槇島。……

時子。何うしたんです、まるで啞のやうね、……わかつたわ、あなたは憤つてゐるのね。

槇島。僕はおこつてなんかゐません、たゞ何もかもわからないだけです。

時子。それならすつかり眼をさましなさいよ、さあ、一所にこゝに腰かけませう。

（二人腰を下ろす）

時子。まあ赤坊のやうにすなほだこと……後向になつてお月樣を見ませうか、（後向にならうとしたが急に思止って）よしませう、こんなすさんだ顏をお月樣にお眼にかけたつて、今更始まりませんからね、槇島さん、私かはつたでせう。

槇島。（無言）

時子。また無言なの、まだそんなことは早すぎますよ。

槇島。（吐息と共に）何が何やら、少しもわからない。

時子。いやな人ですね、あなたはまだ夢を見てゐるんですか、それとも折角の夢をぶちこはされて腹を立ててゐるんです

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か、でも、そんなことは仕方がないぢやありませんか、あなたがもつと早くいらつしやると、今のやうないやな場面をあなたに見せるんぢやなかつたけれど、あなたの來ようが遲いから仕方がないわ。
槇島。僕はそんなことを聞いてゐるのぢやありませんよ、一體あなたが誰だか知りたいんです。
時子。私が判らないつて言ふの。
槇島。判りませんよ、いや、僕にはあなたばかりぢやない、何もかも判らないんです。
時子。この人餘程どうかしてゐるわ。
槇島。僕はあなたを知つてゐるやうです、僕の心は今非常にあなたを愛してゐるやうだ。
時子。それから。
槇島。それから先が、僕にはわからない、
時子。いゝわ、今わかるやうにしてあげませう、私はその位のことはもう知つてゐるのですからね、あなたの一番恥しいことを敎へてあげませう、私にしたことですよ。そしたら、あなたの夢がさめるでせう、あなたが朝鮮へ來た當時、毎晩、毎晩……(槇島の顏を見て)思ひ出せない。
槇島。(無言)
時子。顏を赤くしたのね、思ひ出せない。
槇島。(無言)
時子。それぢや……ホラ、いつか私の手紙に接吻したこともあるでせう、こつそり。
槇島。(恥しさうに) さうだ、あなたは時さんだ。
時子。思出したの、汽船の中で初めて話した時の小さい娘ですよ。……でもすつかりかはつたでせう。私はあの時から、あなたを戀してゐたのですよ(寂しく) 今は何うだかわかりませんがね。
槇島。僕だつてあなたが非常に好きでしたよ。
時子。だから、あんなつまらない私の手紙に接吻なんかしたのでせう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

槇島。そのことはもう話さないで下さい。
時子。話しませんよ、あなたがもう私を思出してくれたんですもの。
槇島。（當時を追想しながら）あなたと初めて會つて別れてから三年になりますね。
時子。（考へて）たつた三年かしら、私は三年の十倍もなつたやうな氣がしますよ、あなたはそんなに變らないのね、まだ新聞記者をやつてゐるの。
槇島。多分さうでせう。
時子。多分、どういふ意味なの。
槇島。意味なんかあるものですか、僕はたつた今牢屋から逃げ出して來たんだもの。
時子。牢屋から、何だか話が變ね。それぢや新聞へ鑛山の惡口を書いたのはあなたなんですか。
槇島。え……
時子。まあ…でもあなたも面白いところへ行つたものね、汽船で初めて眼を會はした時から、私とあなたは同じくゝぢをひいてゐたんですね。
槇島。あなたはあれから何うしました。
時子。ほら、あの天幕のとほりですよ。
槇島。……
時子。わからないの……わかつたでせう、面白い商賣でせう、本當に面白い商賣でせう。
槇島。（無言）
時子。あの天幕を携帶して、私達は主人に連れられて旅から旅へ歩きまはるんですよ、そして異國にある日本人達をなぐさめて歩いてゐるんです・立派な犧牲でせう、あとに國家が私達のために立派な墓場をこしらへてくれるでせう。
槇島。（無言）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時子。槇島さん、この世の中つてずいぶん面白いところね……いろんなものを賣ることが出來るんだもの、全く結構な世の中だわ。

槇島。(無言)

時子。あなた、また默つてゐるの。

槇島。俺達は皆あんな天幕を背負つてゐるのだ。

時子。(無言)

槇島。俺達はやれきれない。

(槇島急に女を抱きしめて接吻する)

時子。あなたまだ坊ちやんね、こんなことにさう昂奮しちや笑はれますよ……おや何うしたの、恥しくなつたの、恥しがらなくたつていゝわ(强く)私を抱きしめて下さい、あなたの力で私の身體がちぎれる程抱きしめて下さい。(沈默、あへぎながら)もつと、もつと、槇島さん……あゝ、この世の中が呪はしい、私は死んでしまひたい、呪つて、呪つて死んでしまひたい。

(沈默)

時子。あゝいつそのこと、こゝを逃げ出さうかしら。

槇島。さうだ、逃げない。

時子。あなた一所に逃げてくれる。

槇島。あゝ、逃げてもいゝ。

時子。……

槇島。何うしたの。

時子。駄目、駄目、あなたには出來ないこつたわ。

槇島。……。

時子。（ヒステリック）いゝわ、私なんか何うなつたつていゝ、朝鮮の赭土の中に埋められたのが私のさだめなんだ……槇島さん、さあ、天幕へ行きませう、今晩は私があなたを買ふのですよ、文句はないでせう。

（槇島の手をとつて立上る）

時子。（空を見あげて）お月様お休み、今晩は私も幸福ですよ。（笑ふ）

（二人天幕の中にはいる、永い沈默、また唄がきこえてくる、間もなく料理店の内で（出て行けつ〳〵）とどなる主人の聲がする、そして戸があくと、金黄鎬が主人につきとばされて外に倒れる）

金黄鎬。、あいご、あいご……李召史、李召史。

（彼は漸く立上る、そして料理店の戸に手をかけたが、戸は開かない、彼はかなしい聲で女の名を呼んだが答がない、たゞ唄の聲が聞えてくるばかりである）

金黄鎬。（泣きながら）あいご、あいご、李召史や、お前それぢやひどかべ、俺あ、土地をとられてお上から貰つた五十圓の大金を今すつかりとられたゞ、それだのに、お前が俺あに顔を見せねえつてひどかべ、お前は俺達と兄弟ぢやねえか、それだのにお前は日本人に身體を賣るのけ、李召史や、李召史や、俺あに一寸でもいゝ顔を見せてくんろ、俺あお前の顔を一寸でも見れば死んでいゝだ、俺あ土地をとられて生きてゐる樂しみがねえだ、女房（おつかあ）は死ぬし、息子は牢屋へ引かれて行くし、俺あ大洞江の捨小舟だ、李召史や、俺あにたつた一眼お前の顔を見せてくんろ、俺あそれだけでこのいやな世の中にあばよするだ、李召史や、李召史や……あいご、あいご、李召史や、顔を見せてくんろ、俺ああの世に行つたら、お前の亭主によく言ふだ、お前の苦しんでゐることを皆言つてやるだ、李召史や、俺あにちよつくら會つてくんろ。この世のおしまひにちよつくら顔ををがましてくんろ……

（返事がない、唄ばかりきこえる）

金黄鎬。（急にかつとなり戸をたゝき）畜生ツ泥棒だち奴、俺あから五十圓の大金をすつかり巻きあげやがつて、女をかくし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て出しやがらねえ、泥棒つ、泥棒つ、お前達は皆泥棒だべ、俺あから大事な土地をとりあげて今度はその金を皆まきあげて女に會はせねえ、お前達は皆くんで俺や仲間を殺す氣だべ、畜生つ、畜生つ、……あいご、あいご、李召史や、俺あの可愛い、李召史や、俺あにちよつくら顏を見せてくんろ。

（沈默、突然駈出す、そして振返つて拳骨をかためて、突出して呻く）

金黄鎬。覺えてゐろ、俺あ、お前達を呪ひ殺してやるぞ。

（狂人のやうにかけて去る、永い沈默、唄やむ、間もなく料理店の戸があいて淺井と李召史が出てくる）

女の聲。（内から）左樣なら。

淺井。左樣なら。

女の聲。（内から）芳子さん、おたのしみ。

李召史。ありがとう。

李召史。いゝ晩ですね。

淺井。（女の顏を眺めて）お前の顏色は大變蒼いね、まだ心配してゐるのかい。

李召史。胸がどき〳〵するのよ。

淺井。あの男が恐しくつてかい。

李召史。何うだか、あなたのせいかも知れないわ。

淺井。なる程ね、お前は李召史ぢやなくてすつかりカメリヤの芳子さんだ。

李召史。カメリヤつて何なの煙草の名。

淺井。（輕く笑つて）さうだ煙草の名だよ。

李召史。どんな煙草。

淺井。吸ふと、色狂人になる面白い煙草だよ……あゝ甘い晩だな。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

李召史。お腹が一杯になつたからよ、少し休んで行きませう。

淺井。休んで行つてもいゝ、やつぱりあの男がこわいのだね。

(後向になつて丘に腰を下ろす)

李召史。家に歸るのが恐しいの、金黃鎬が待つてゐるやうな氣がして。でも旦那やお主婦さんのやり方も少しひどいのね

五十圓の金をまきあげて追ひ出すなんて、いくらよぼだつてひど過ぎるわ。

淺井。(あいご、あいごと言ふ刎れさ)この人生は他人のことに眼をつぶるのが上分別だよ、……あゝ、いゝ月の晩だ。S鑛山の全景がすつかり瞰下されるね、俺は槇島と一所にあすこに呻めいてゐる勞働者を眼ざますために三日前、こゝにやつて來たんだが、運命つて奴は何處までも皮肉だ。俺はいゝ氣持でこの凄慘な景色を眺めながら、別嬪を抱擁してゐる……(や、冷笑的に)これが近代人の生活といふものかな(女の肩に手をやつて輕く接吻する)

李召史。いや、

(と言つて向をかへる)

。お前はおこつたのかね。

李召史。いゝえ。

淺井。ぢや、急に何うしたんだね。

李召史。私あの景色をみてゐるのが恐しいの。

淺井。何うしてさ。

李史召。だつて私の夫の死んだのは、あの鑛山のせいですもの。

淺井。何うして、お前の亭主は土地を賣つた金でよつぱらつて、川にはまつて死んだつて言ふぢやないか。

李史召。そりや、さうですが、でもあすこにあんなものが出來ず、土地をとられなかつたら、夫は死なゝかつたらうし、

私も百姓の女房でのんきに暮せたんですよ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

淺井。なる程ね、さうだと金黃鎬につけまさはれる心配もなかつたし、僕のやうな男と、ねんごろにならなくてもすんだわけだ。

李召史。あの鑛山は私の一生の讎だわ。

淺井。……

李召史。今に私もあのために自分の生命をとられるでせうよ。

淺井。お前のとこの田は何處邊にあつたのだね。

李召史。煙突のたつてゐる邊、金黃鎬の田は長屋のたつてゐる邊よ。

淺井。（獨言のやうに）（田に煙突がたち、機械が人間を殺す）これが文明の第一次方程式だ、そして第二次方程式が、俺のやうな淺薄なニヒリストだ、……芳ちやん行かう、そして燒酎を飮んで寢ようぢやないか。

李召史。えゝ行きませう。

（二人立上る、この時、埋葬曲がきこえてくる）

淺井。何だらう。

李召史、お葬式の言葉だわ。

淺井。さうらしいね、こんな美しい晩に死ぬなんて、氣のきかない人間もあつたものだ。

李召史。あつ。

淺井。何うしたの、芳ちやん。

淺井。あつ、行列だ。

李召史。（男にとりすがりふるへながら）お葬式が、眞黑いお葬式が。

李召史。（男の胸に顏をうづめて）淺井さん。

淺井。そんなに騷かなくていゝよ。實に奇怪な行列だ、芳ちやん、しつかりおし、俺達は何處かへかくれよう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

（淺井は李召史を抱きかゝへて第二の天幕にはいる、奏樂につれて眞黒い奇な怪列行がしづかに舞臺をとほる、五六人の人々、沈默、奏樂つゞく、間もなく天幕の中から槇島愴浪として出てくる、そしてつかれた人のやうに行列を見送つてゐる。）

槇島。あの女は昨日鑛山で會つた女だ、あの女の連合もとう〳〵死んでしまつたのか。……あつ、また行列が來た、今度は子供の行列だ。（槇島灯を追ふやうに手をさしのべて獨言する）

槇島。お前達は誰だ、お前達は何處へ行くのだ。……やあ、お前達は昨日まで俺と一所に監獄で働いてゐた子供達ぢやないか、お前達は何うしたんだ、何故そんなに悲しい顔をしてゐるのだ、……お前達は何處へ行くんだ、皆許されて、お母さんの家に歸るのか、……何んだつて、そ、そんならお前達は皆死んだのか、皆死んだのか、……（急に前に駈け出て）おい、おい、貴様は何故鞭で子供をぶつんだ、この子供達は皆死んでゐるぢやないか、それだのに貴様はまだその太い鞭をはなさないのか、（兩手で頭を押へて）あゝ、たまらない、たまらない、子供達は悲鳴をあげてゐる、呻いてゐる、泣き叫んでゐる。……まるで洪水のやうだ、人間の呻き聲が四方八方からきこえる、この地上は呻吟の海だ……眞理よ、お前は何處へ姿を消したのだ、民衆は呻めいてゐる。民衆は殺されかけてゐる、光よ、光よ、お前はまだ、押込められてゐるのか、飛出してこい、民衆はお前に飢えてゐるのだ……。あ、あ、行列がまた來た、無數につゞいてくる。どれも〳〵眞黒な行列だ、……俺は苦しい、俺は死にさうだ。お母さん、俺をこの苦しい牢獄から救つてくれ、

（地上に倒れる、音樂止む、間もなく李召史が天幕から出てくる）

李召史。淺井さん、もう葬式が遠くへ行つてしまひましたよ、本當にさつぱりしたわ。

（答がない）

李召史。何うしたの、淺井さん、早く出ていらつしやい、

金黄鎬。李召史。

（金黄鎬天幕から顔を出す）

李召史。早く歸つて、燒酎を飲んで寢ませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

金黄鎬。―李召史。

李召史。酒くさい、お前さん一人でもう燒酎を飲んだの。

金黄鎬。李召史。

（手をとる、李召史始めて氣づく）

李召史。あつ、金黄鎬、

（李召史逃げようとする）

金黄鎬。李召史や、お前は何故逃げるんだ、何故俺の言ふことを聞いてくんねえのだ。

（堅く押へつける）

李召史。金黄鎬、いやだ、いやだ。

金黄鎬。（あやしく亂れて）俺あ、お前に惚れてゐるだ。俺あの言ふことをきいてくんろ。

李召史。いやだ、いやだ。

金黄鎬。李召史や。

（李召史抵抗する、金黄鎬の顔をぶつ）

金黄鎬。畜生つ。

李召史。淺井さん、助けて、助けて。

（金黄鎬全く形相を變へて飛かゝる、そして女を天幕の中につれ込む。女の悲鳴がきこえてくる、暫くの間抵抗する氣配がする、間もなく舞臺は完全な沈默に閉される――何處からとなく聲が聞えてくる、（金黄鎬逃げろ〳〵、槇島々々）槇島飛上る、そしてふらふらと二つの天幕をのぞく）

槇島。金基鎬、金基鎬……誰もゐない、まるで穴のやうにからつぽだ。

（再び前と同じ聲きこえてくる）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

槇島。誰だつ、俺を呼ぶのは誰だつ。

（そこへ一之瀨が急いでやつてくる）

一之瀨。槇島。

槇島。誰だ。

一之瀨。俺だ、一之瀨だ。

槇島。一之瀨……君は何うして歸つて來たんだ、君はこゝを追放されたのにまだぐづ／＼してゐたのか。

一之瀨。俺は復讐に來たのだ。

槇島。君は何うせうと言ふんだね、

一之瀨。[illegible]

[illegible]

槇島。待つてくれ、僕は今行けないんだ、僕は金基鎬を遁してやらなけやいけない。

一之瀨。金基鎬、君は金基鎬が死刑になつたことをまだ知らないのか。

槇島。死刑になつたつて、いつだ、

一之之。今朝さ、今朝殺されたのさ、石につぶされた靑蛙のやうに往生したよ、君はまだ知らなかつたのか。

鎬島。……

一之瀨。何うした、君はそんな小つぽけな悲劇に眼暈をしてゐるのか、さあ、行かう、[illegible]（[illegible]だ。そんな小つぽけなことにかゝはつてゐられるものか、さあ、行かう。

（一之瀨、槇島を抱きかゝへるやうに急いで行く、だが間もなく槇島一人歸つてくる）

槇島。一之瀨、一之瀨、待つてくれ、君は何うしてそんなに駈けるやうに急ぐのだ、あゝ疲れた、俺は十年も歩きつゞけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たやうに疲れた、俺の足は鉛のやうに重い、俺の呼吸はきれさうだ。……おや、こゝにまだ天幕がある、一體何うしたことだ、俺はまるでこの天幕にあやつられてゐるやうだ、時子もゐない、金黃鎬もゐない、ゐるものはあはれな俺と、天幕の手品師だけだ……誰かきたやうだ、あゝ、あいつは俺を牢屋にぶち込んだ、S鑛山の柄木だ。

(槇島棒のやうに立ちすくんでゐる、やせて弱々しい三人の鮮人と柄木がやつてくる、舞臺の中央まできてとまる)

柄木。さあ、こゝを掘るんだ、

(三人の鮮人は素人で地面を掘る)

柄木。貴樣は何故怠けるんだ、鞭をくらはすぞ、

(鞭はうなつて三人をうつ)

三人。(地面にへたばつて)あいご、あいご。

柄本。さあ、どん〳〵掘れ。

槇島。やあ、あの鮮人達は俺と一所に牢屋を逃げ出した仲間だ、皆、皆の指から血が吹き出てる。

柄木。早く掘れ、さあ、鞭だぞ。

(鞭をふる、三人またうなつてへたばる)

柄木。もつと堀れ、もつと堀れ。

(三人また掘る)

柄木。もうい〻、どけ。

槇島。やあ、金貨が出た。

(柄木は金貨を手に一つぱい握つて叫ぶ)

柄木。さあ乞食共、皆集れ、俺は今貴樣等に金をまいてやるぞ。

(金貨をまく何處からともなく數人の人間が駈けあつまつて來て、地面をはひながら金貨を拾ぶ)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

栃木。あはゝゝゝゝゝゝゝ（心地よげに高笑する）

槇島。悪魔ツ、悪魔ツ、俺達の敵はあいつだ、一之瀬早く來い、

（一之瀬忽ちとんでくる）

槇島。一之瀬、俺達の敵はあいつだ、復讐今だ。……

（二人は腕をくんで栃木に向ってとびかゝる。『立て呪はれし者』の民衆の歌がながれてくる、歌は次第に〳〵に強く迫つてくる。）

——（幕）——

ソレルの回想

植田好太郎

（一）

ソレルは死んだそうだ。多年ソレルの著者に親んで來た僕には、感慨が非常に深い。

然し考へて見ると、ソルレは——忌憚なく云へば——もう死んでもいゝ頃だ。彼の役割はもう一九一七年十一月七日のボリシエホキの革命の日に、一切が果たされた筈であつた。ソレルの學説は、恐らく永久に不滅であらう。然し彼の學説の背景たる革命的センデイカリスムは、ボリシエヰキに打ち殺されて了つたのだ。ソレルが死んだと云ふ報知を得たとき僕はもう何にもかにも終つたやうな氣がした。

僕がソレルの著書に異常な親しみを以つて耽讀したのは、もう大分古いことだ。然かも一般にソレルの名は、殆んど知

られずに來た。ソレルに關する研究の發表では、何んと云つても恩師米田庄太郎氏が一番早かつたと記憶する。次で大杉氏の論文、左右田博士の論文などが現れた。數年前に僕が『ソレルの神話說』を書いた時には、日本ではマルクスとクロポツキンが大流行を極めて居た。然し一般民衆からソレルは、殆んど門外漢のやうに扱はれてゐた。

(二)

それから間もなく日本へ、一九一九年に發行された『暴力論』第四版が輸入された。それは內容が第三版とは、少しも異つてゐない。唯卷末に『レニンの爲めに』なる一文が附加されてゐるばかりで、戰爭の影響のためか紙などは前の版と比較して甚だ粗惡なものが使つてあり、感じの非常に惡い書物であつた。殊に妙な感じを與へられたのは、卷末の『レニンのために』なる一文であつた。いつだつたか東大の經濟研究室で絲井助教授にお目にかゝつた時、ソレルも隨分老ひぼれたものだと云ふやうな意味の話をし合つたことがあるやうに記憶する。その頃『暴力論』の第四版の續いて、日本に『プロレタリアの學說の材料』なる論集が輸入された。この書物には彼の斷片的な論文が殆んど全部收められてゐて、彼の有名な處女論文『勞働組合に於ける社會主義者の未來』なる論文も、このなかに收められてゐる。『勞働組合に於ける社會主義者の未來』なる論文は、この論集が出るまでは讀む機會が仲々得られなかつたらしい。僕は四五年以前に慶大の小泉敎授から、左右田博士が原本をコロタイプにされた複本を頂戴したが、その當時は虎の子のやうに秘藏してゐたものだ。然しソレルのこの論集が出たとき、僕はもうソレルは死ぬ用意を始めたなと感じた。そして何んとなく淋しいやうな、悲しい樣な豫感がした。この豫感は、更に最近にソレルの『實利主義の效用に就て』なる哲學的著書に接したとき、一層强められた。ソレルの哲學的立場は、本書で非常に明瞭に描き出されてゐる。僕はもうソレルは死んでもいゝと思つた。

(三)

ソレルは一八四七年十一月二日に生れ、二十歲まで巴里の工藝學校に學んだ。そして一八九二年にレジオン・ドヌール勳章を得て退職するまで約二十五年間、政府の技師として奉職した。一八九七年に彼の愛妻を失つて以來、彼は甥とブローニュ・シュル・セーヌに貧しい淋しい生活をした。そして專ら社會科學の著述に耽つた。その翌年に『勞働組合に於ける

社會主義者の未來』なる論文を發表し、それ以來ベルト及びラガルデルなどと共に急進主義の雜誌『社會主義者運動』に執筆を續け、彼の天才的なる論文を陸續として發表るすに至つた。彼は前記の諸著述のほか、『マルクス主義の解剖』や『近代經濟序說』や『進步の幻影』などの、著名なる著述を出版してゐる。右のうちソレルの『マルクス主義の解剖』は『マルクス主義批判論』と題して伊太利語に飜譯せられ、また『近代經濟序說』は『近代經濟の社會的教訓』と題して伊太利語に飜譯されてゐる。

（四）

ソレルは佛國の有名なる思想家ルナンの高弟であつたので、社會科學の研究に沒頭する以前には、主として聖書の研究に沒頭してゐた。彼の該博な歷史學や、神學の智識は、ルナンに負ふ所が僅少でなかつた。彼し彼は社會科學に就て、全然獨學であつた。彼は自己の立場を『暴力論』の序說に於て云つてゐる。『私は大學教授でもなければ、通俗著述家でもなく、また政黨の領袖の志願者でもない。私はその適切な教育に役立つた備忘錄を、他人に見せる獨學者である」と。彼が如何に學問に忠實であつたかは、彼の著述が版を改むる每に、改訂せられて行くのを見て判ると思ふ。彼は猶ほ云つてゐる。「二十年の間私は、私が教育されたことから離れやうと努めた。私は學ぶと云ふことよりも、私の記憶に留つた觀念を取去るために、書物に對して私の好奇心を働かせた。十五年このかた、私は眞に學ぶために努めた。しかし私は決して私が知り度いと思つたことを教へて與れる人を、見出すことが出來なかつた。私は私自らの師であらねばならなかつた。そして殆んど私自身を、教育せねばならなかつた。私は備忘錄を作つて、考が浮んだ時に、そこへ私の思想を書きつけた。私は敷衍して書いたり、また時によると全然變更したりさへして、同一の問題を三度も四度も考へ直した。私は最近の讀書から得た備忘の蓄へを涸渇して了つた時にやめた。この努力は私に、多くの苦痛を與へた。」いつだつたか大分以前に大杉氏に逢つた時に、ソレルの『暴力論』は序文が一番面白いと云つてゐたやうに記憶するが、僕も同樣に感じてゐる。

（五）

豫定の紙數を超過しそうであるが、何んとか結びをつけないでは僕はこの稿を終るとが出來ない。ソレルは斯く革命的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

センディカリスムの理論的體系の建設者であつたが、彼自身は決してプロレタリア階級のテロリズムを鼓吹したのではなかつた。このことは『レニンのために』のなかにも明白に說いてゐる。彼は唯一個の哲學者或は社會學者に過ぎなかつたそして彼の學說が彼の死と共に漸く世界に光を放たんとするときに、革命的センディカリスムの實際運動が、理論的にも實際的にも破滅に瀕してゐることは、何んとした皮肉であらうぞ。僕は擱筆するに際して、大鐙閣から出版すべく目下翻譯中の『暴力論』及び拙著『佛國C。G。Tの運動と哲學』のなかのソレルの研究、並びに『社會思想と共人々』(この書物は北澤新次郎氏と共著にする約束で僕が大部分を執筆したのだが故あつて北澤氏一人の著書となつて出版された』のなかのソレルの一項を、併せて一讀されんことを讀者に願つておく。

二月號豫告、

水平運動號として益々內容を充實させる。

赤列車

科學と無產階級文化

武藤直治

一、

『眞理の發見、これが吾人（科學者を指す）の活動の目的でなければならぬ。吾人が活動の目的とするに値するものこの他にはない』（ポアンカレ『科學の價値』結論）然り、科學の目的は眞理の發見に窮極する。その眞理が人生に對して如何なる影響を與へるものにもせよ、科學は眞理への飽くことなき追究を怠ることは出來ぬ。實用主義（フラグマチズム）は科學の目的を實用（uticity）にありとなすが、それは科學の成果である、實用的應用の方面ばかりを强調、若くは誇張したにすぎない。科學の目的はあくまで眞理の發見にあつて、實用にはないのだ。

科學の目的とする眞理は何であるか。眞理は固定的でなく、つねに可變的であり、進化する。故に眞理は科學者の勝手に創作した法則、假設に外ならぬらしくさへ見える。けれども科學の眞理は科學者によつて隨意に假構することを許されない、科學の方則が假說はつねに自然、客觀界の制約、決定をうけて成り立つ。

全體の自然科學は唯だ一つのシステムを要求する。少くとも豫想する。哲學者が個々人に一つ宛の體系を立て、そして甲、乙、丙……各人の間に、矛盾し、相反した傾向を現はした體系の並立して存在することを許し得る。かの哲學史をみよ、私たちは無數の體系の哲學の交錯、消長によつて惱まされるではないか。

けれども自然科學は、いかほど多人數によつてなされる共同の事業でそれがあつても、つねに一つの體系の中に統合されねばならぬ。一つの新しき法則、眞理の發見は自然科學全體系の改造か、……る。然して改造された新しき科學の體系は、舊き體系を自らのうちに攝り入れ、それをよりよく再生させてゐるのだ。科學史は科學の體系の改造、革命の聯續の跡を辿る。

科學は全人類共同的勞作によつて支持され發達させられる。科學の實驗、その法則、眞理の發見、新しき應用方法の發明は、國境を超越した全世界の科學發達の努力によつて合成されてゐる。科學の哲學、科學の形而上學が若し成り立つならば、それは所謂在來の哲學がさうあつたやうに個性的・主觀的の色彩をそれは有しない。然し强いて云ふならば、科學の體系は、人類的、人間的特徵と個性とを有する。科學は概念としてに非ざる、實在するものとして全人類、或ひは人間の主觀的立場を、尺度とし標準としてゐる。そこに科學の國境を超越し、人類を超越し、階級を超越する特色がある。

　眞理のための眞理の發見、科學のための科學の研究、等の努力には、在來の哲學や宗敎や、その他一切の文化現象の如く、人種に執着し、國境に制限され、ある特權階級の利害を結合することの出來ない根本的のインタナショナルなる本性を具有してゐる。故に科學及び科學精神の中に私はプロレタリアの心と、そのインタナショリズムと共通する特色を認めざるを得ぬ。かくて科學精神によつてプロレツトカルト（無産文化）は思想的根抵づけられねばならぬことを私達は確信するのだ。

二

　科學がある個人、ある特權階級の獨占、又は搾取のための應用を目的としてゐないことは、內面的に科學を考へても明らかである現在の如く科學の應用が、万人、全人類の共同の福祉に背反して、特權階級のために占有されてゐるのは、科學それ自身の罪過ではあらぬ。科學に對する無知識と、かれらの經濟的、社會的の無力なるにつけ込んで特權階級が科學の成果をば掠奪し、さらに惡用してゐるにすぎない。科學の發明、應用の成果を自己の享樂と搾取作用に應用してゐる。かれら特權階級の利己的努力こそ實に、科學精神と相反するものである。然るに多くのブルジョワインテリゲンツイアの科學發達が、科學の眞精神と背反してブルジョワの特權と搾取作用に助勢するために努力して自ら恥ぢることがない。見よ、夥しい大學理化學研究所、圖書館、械機藥品の製造所等が何の目的のためにあの日々の活動をしてゐるか。近くは例の營養研究所といふ廣大な新研究所がある。每日の仕事がそれを必要とするプロレタリアのためではなく必要のないブルジョワのための食物のカロリーを研究すべくその莫大の費用をプロレタリヤから搾取してゐるのは如何だ。それらの科學の成果はプロレタ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リアをより早く搾取する目的以外には向けられて居らぬ。

科學の内には、いまなほ眠つてゐた眞の科學精神を刺激し、覺醒を與へたのは、社會主義であり共産主義であり、無政府主義であり、プロレタリア的世界主義である。然して、科學をプロレタリア、全人類の所有に奪還することは[illegible]。プロレタリア文化の建設を根抵づけ、促進するものは眞に覺醒せられたる科學及び科學精神である。科學の眞理は全人類の福祉のために最大の價値があることを私達は信ずる。而も科學はそれ自身が世界語である。全人類に共通した心そのものである。科學及び科學精神をしてプロレタリア文化の根抵たらしめよ。（完）

ある日の夢

水守龜之助

いろんな雑事に惱まされてゐるので頭腦が疲れきつてゐる。午後の時間を偸んで、私は藤椅子に腰をかけて眼を瞑つて見た。秋晴のまるで春のやうに暖かいのどかな日である。つい、とろ〳〵と眠りに誘ひ込まれさうになる。

が、何だか頭の中に鉛の固りのやうなものが塞つて居さうでいやな氣がする。眠りかけたかと思ふと、びくりと何かに悸えたやうにさめる。「神經衰弱だな！」と、私は夢現の中で呟いて見るのであつた。

羅宇屋の汽笛が聞える。

キチ、キチ、キチと百舌の聲が響く。

さうかと思ふと、どこかでポンポンポンと皷の稽古をしてゐるらしい音がかすかに快く耳に入る。

やがて、また、つい近所の建築場から石を割る音がキーンキーンと劈くやうに聞える——「實に天下は泰平だな！」と、思はず私は獨語せずにはゐられなかつた。

すると、「本當にさうだよ。」と、不意に聲をかけたものがある。ふつと頭をあげると、いつの間にか背の高いFが傍に來て、ニヤ〳〵しながら立つてゐるのである。そうして、「社會問題も追々下火になつて來たぢやないか。ありや、君ジヤアーナリズムの製造した社會問題だからね。」と、如何にも人の好さうに哄笑した。

いつもの事なので私は苦笑したばかりで默つてゐた。が、どうも心の中が平らかでない。さつき、うつかり「天下泰

平だ。」なんて云つたことが妙に氣になつて來る。

するとまた別の男が、「階級鬪爭がどうの、プロレタリアの革命がどうのと、生若い連中が騷いで見たところで受賣だよ。それでこの世の中がどうとかなると云ふのでもないからね。君だつて、さうして呑氣さうに寢てゐるところは、正にブルジョアの享樂と云つた光景ぢやないか。」と、皮肉な調子で冷笑した。見ると、それはBであつた。

私はムラムラと癇癪が破裂しさうになるのを覺えたが、何を云ふのも無駄だと思つてわざと假睡の狀を裝はうとした。

急に揺り起すものがあるので、さすがに私も眠つたふりをしてゐるわけに行かなくなつた。仕樣事なしに眼を開くと今度はKがゐるのであつた。「君！　もうBはゐないよ。安心し給へ。僕等は何と云つても藝術家だよ。藝術に階級なぞがあるわけはないぢやないか。お互にさう云ふ喧騷から超越して、藝術に專心にならうぢやないか。プロレタリアの藝術を捏造する奴等が團結して來るなら、此方でも團結するまでのことさ。藝術には永遠性がなくちや駄目だ。古來の藝術はすべてさうぢやないか、眼前のことばかりにかゝずらはつてゐられないよ。」と、吶々とした調子で勵ましてくれる。

私はちよつと安易な氣持になりかゝつた。が、直ぐそれを刎ね返すやうに、「そこだ！」と、心窃かに叫んだ。Kは確かにプロレタリアに宣戰する心持だけはもつてゐるやうだ。すると兩者の陣地はもう劃然と分れたことになる。これを階級鬪爭の現れと見ずして何と云ふべきなのだ。すべての詭辯も、解釋も、否定もその前には何の役にも立たないのだ。唯、こゝに於て吾等の決すべきは何れに就くべきかと云ふ簡單な問題に過ぎない——私はかう考へて、奮然として起き上らうとした。Kの姿は消え失せて了つた。丁度その時であつた。二三人の威勢の好い聲で、卑怯な「日和見主義者（オッポチユニスト）よ！」しつかりしないか？と、罵るのが聞えた私はびつくりした。そして、驚きの眼を瞠つて、そこらを見廻すと、物かげから、Hや、Oの懷しげな、健康さうな希望に滿ち輝いた顏が覗つてゐるのであつた。

「畜生！　人を試しやがつたな？」と、私は怒ることも出來ずに、かう云ひ返すより外はなかつた。

併し、彼等はそのようで私を許してくれはしなかつた。彼等はマルキシズムの信者であり、コンミユニストでありまた、ボルシエヴヰズムの宣傳者であつた。なかなか鼻息

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が荒い。が、彼等が一介の書生であつて、無資無力の徒の小さな集團に過ぎないのは云ふまでもなかつた。なる程から云ふ連中が血氣に逸つてやる仕事なら輕蔑されるのは無理もないことだ。やがて、Fの云つたやうに、ジャアナリズムの下火になると共に、その氣勢を潜めて了ふのかも知れないと、私は考へた。が、彼等の信念と、熱情と、雄辯とは、あくまでも私を降服させずには措かないのであつた。

きいて居ると私は恐ろしくなつた。そして、それ等の書生輩の一團を單にさう輕々しく見ることが出來なくなつたと云ふのは舊社會組織が崩壞の運命に傾きつつある場合、既にその母胎内に新社會の成立條件は孕まれるべきだと云つたマルクスの言を考へると、そこにゐるHやOや、その他の顏が、恰もその新勢力の象徴のやうに見え出したからである。

——……

誰かの云つた言が思ひ出されて來た。更に、ロシヤなぞの例を引く迄もなく、その實質内容に於ては雲泥の差があつたが、彼の武漢の空に烽火があがつたのは、孫逸仙や、黄興やその他の所謂志士の力でなく、實に少數無名の金釦制服の海外留學生の手によつてゞあつた。また、機器局を奪ふ計をたつるには彼等はすべて……事實も心に浮んで來たのであつた

これは隣國支那の昔話である。併し、大勢によく乘じ、先づ點火し得るものは、いつゝ少數無力の青年の力だと、私は今更のやうに考へざるを得なかつた。……そこに思想の力が必然に生れる。その思想の力は眼に見えぬ水の如く、或は火の如く、知らぬ間に天下に彌漫するのだ。うつかりしちやゐられない。——

そこで、私は漸く夢からさめたのである。氣味の惡い寢汗をびつしよりかいてゐた。が、日はまだ高く、鼓の音は矢張のどかな空に聞えてゐた。

併し、私はもう「天下は泰平だ!」なぞとは呟くことが出來なかつた。

鼠

——A Sketch——

前田河廣一郎

俺の一家が移住するまへに、鼠は數家族で屋根裏に棲んでゐた。

俺だちはながいことかかつて鼠の存在を認むるには當らなかつた。移つた運送屋の殘骸は、疊といひ、棚といひ、臺所といひ、押入のなかと云ひ、總じて鼠臭かつた。翌る日の味噌汁の茄子がきれいに皮だけ殘されて、果は何物かに巧みにすくひとられてあつた。寢てゐると天井裏に、多數の鞭が搏擊し合ふやうに、われわれ以前の移住者がながい尻尾を板へうちあてながら組んづほつれつ戯れ合ふ氣勢がした。また、時には終夜砂糖を入れた押入の戸を、誰か鋭利な鑿を持つて丹念に穴を穿がたうと試みるやうな音を續けるのであつた。ある眠られぬ暑苦るしい晩、俺は隣室の方から眞しぐらに、針のやうな爪尖で疊を引つ掻きながら俺の枕元を通りすぎてテーブルの上へ馳けあがる小さな闖入者の襲來を知つた。

『こりあ、どうにかせにやならんぞ。——』

俺は翌る朝至極人間らしい嫌惡の情から、さう妻に云つた。

『彈機仕掛の穽がよからう。あいつは外れつこはない。』

と獨り語ちながらその材料を見出しに俺は隣りの空小屋になつてゐる倉庫へ入つた。太い針金と板を持つて來て、椽側で細工をしてゐると、

『それあ、あんまり慘酷ですわ。』

と妻のやつが女々しい人道主義を楯にとつて、自分の恐怖觀念から脫れやうとするのだつた。

穽と云ふものをこさへた經驗のない俺には、第一針金をどう曲げて彈ね返へしをこしらへていいかさへわからなかつた。それで、その場は妙に女の人道主義に心を許すやうな態度で、板と針金とを投りばなして、いつか金が入つたら、立派な金網の生地獄を買つて來て二階の先著の移住者を鏖殺しにしようと云ふ漠とした武斷的な計畫をさへ無意識に頭の中へたたんで置いた。

『それあ面白いやうにとれるんですよ。わたしどもはよく流しの下へ御飯粒を敷いてあの鼠取りをかけておきますとね、日に九匹も取つたことがありますよ。』

俺たちのまへにこの家に住んでゐた妻の姉は、いかにも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女らしいしなやかな聲で、微笑をさへ含みながら九匹の鼠を一日に殺したことを平氣で語るのであつた。俺は妙にこのやさしい姉に對して一種の反感を持つとともに、自分までが金網の鼠取りを買はうと思つてゐたことに云ふに云はれぬ苦るしみを感じた。それは今まで一と二を加へれば三になると思つてゐたことが急にぐれ出して四になつたのを發見したやうな狼狽と、四が正しいのか三が正しいのか判斷にくるしんだ時の疑惑とがひと揉め頭の中で揉めると同時に、心の底からせぐりあげて來る、より弱き者に對する憐憫とが、日常俺たちの生活のいろいろな方面にあらはれる煩悶のやうに、さう深刻でなく、むしろ當然の矛盾ででもあるかのやうにほんの一瞬間俺の心の中をもやもやと掠めさつたに過ぎなかつた。

金が入つた。俺は村の繁華な四辻の荒物屋で、一杯十三錢の酒をコップで二つ飲んでから、思ひ出すともなく筋向ひの金物屋へ入つて金網の籠を買つた。

その晩、鹽鰤の尻尾をその鋭敏なまん中の釣へさして、臺所の釜のわきへ置いた。金物屋の老爺が、白い齒を剝いて『これなら外れつこはありませんや。』と殘忍な表情をしたのが、そろそろ醉のまはつた俺の頭に脅やかすやうに浮んで來たりした。

果してその晩消魂しい物音と共に何物かが金網の箱の中へあばれこんで自動的に封じ込められた氣はひがした。起きてみると女鼠らしいのが籠いつぱいに動きまはつて板の間を排泄物で汚してゐるのが眼に入つた。

翌る朝、俺はその籠を持ち出して井戸端へ立ちながら久しいこと考へこんだものだ。……鼠の地位に立つて考へてみると、人間こそ彼等の存在には不必要な敵ではないか、鼠を捕つていいと云ふ法律は、人間の手足に咬みついて殺してもいいと云ふ鼠の法律とどこに相異があらう。軀の大小こそあれ、敵に對する闘爭心の差別こそあれ、人間と鼠とは同じく大自然のまん中に寄食してゐる動物ではないか世の中にもし、たつた一人の人間だけが殘つて、あとは無數のこの眼の鋭どい、爪の長い蛇のやうな尻尾を持つた黑い動物だけが殘つたとすれば、その中では鼠が勝つたのだ……かう考へながらも俺は無意識にはね釣べをあやつりながら、盥いつぱいの水を汲んだ。

『絶對の正義だ。――力が。』

かう叫びながら俺は無茶苦茶に狂奔する鼠を籠に入れたまま、づぶりと水の中へ沈めた。

それから鼠は毎晩一匹ぐらいの平均で、俺のさした餌のために、俺の買つて來た慘酷極まる生地獄のなかへ舞ひ込む。しかし、俺はもう最初に殺した一匹の女鼠に對するやうに、別に動物間の恐るべき階級闘爭については少しも考へないやうになつた。

俺たち一家族よりも先に移住した二階の移住民は日毎に減つて行く、おそらく最後の一匹が無くなるまで　彼等はどうしてこの慘虐な人間に反抗したらいいかなどとは考へないだらう。……………

（了）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

批評

無産階級の教育的獨立

先頃の勞働同盟全國大會の決議事項に、『今日の兒童教育は資本主義的にして、吾人無産階級の子弟を害すること大なるが故に之を彈劾す』の一項目を加へたのは、私達の意を強くさせたことであつた。實に現在の初等教育はブルジヨワ精神の權化そのものではないか、例へば小學校の國定教科書、就中修身科の實踐道徳の課目はどうだ。それが如何にあるがまゝの階級制度への跪拜と、資本主義の謳歌の思想と、非科學的遺傳と、そして權力政治への信仰とが説いてあるかを私達は見るのだ。

去年中軍國主義、即ち資本主義國家擁護のための不合理極まるミリタリズムへの論難が一部ブルジョワの知識階級者によつて提出されはしたが、その主張が世界平和の夢想に終つてゐるのは私達を啞然たらしめる。勿論具體的の實行手段に關しては何等手を下してはゐないのである。それをば卒先して團體的決議にのぼせ、實行を期したのは無産階級の知識的、文化的獨立を意味するのだ。

ブルジョワによつて授けられてゐる現行の兒童初等教育は、かの地理、歴史、理科の如き科學的知識を正當に投けるのではなくて、わがブルジョワ的社會、(國家)、の神格化された尊嚴をもつてわれらの次の時代への若き芽を枯渇變質させるために全力を捧げてゐるではないか。ことに經濟に關する國語讀本のある課目や、世界地理に關する課目や、内國歴史、實踐倫理に關する教科の中には何んとプロレタリ的自覺に背反するものが夥しいか！ 我々は××勃發前に於けるプロレツトカルトの一使命として、我らプロレタリアの兒童教育の絶對的獨立を一刻も早く實現することを要求する。そのたあに、兒童用パンフレットの刊行、講演、休日を利用するプロレタリア的日曜學校の企て等なほ必要に應じては一…………る。(M・N)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「自由人の生活意識」

加藤一夫著

最近に至る迄、文壇に於て或は實行の方面に於て、社會の改革を必要としそれを主張する者の多くは、何でも現在の資本主義社會は勞働者を搾取する不都合な社會であるから[redacted]

[redacted]斯う云ふ様に人間同志がお互ひに敵視し合つて、個人と個人とで、或は國家と國家とで相對峙して血を流し合はなければならないのは、畢竟この社會の資本家獨裁の經濟組織が悪いのだから、[redacted]限る。が併し、そこには自らその前提を結論にまで到達せしむべき道程が或は手段がなければならぬ。前提が正しいからと云ふので一足跳びに結論に到達しようとするのが、性急なアナーキズムの行き方である。非常な屈辱や迫害を受けて憤慨する場合は誰れでもアナーキステイツクになり勝ちである。[redacted]。

アナーキストの長處はその純潔な感情にあるが、その短處も亦その純潔な感情にある。アナーキストはその純潔な感情から、「打算」に對して潔癖になる。打算は今の吾々の生活に取つて一日も缺くべからざる要件であるにも拘らずアナーキストは「打算」に對して潔癖になる。この打算に對する潔癖は打算を輕蔑する。それでは打算を輕蔑するアナーキスト自身の生活が必ずしも打算的でないかと云ふに、事實は決してさうではない。冷靜な時はアナーキストも初終打算的になつてくよ／＼する。打算的でなくなるのは只感情に燃え立つた時だけである。そして線香花火の様にそ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の感情が消えると、恐らく誰よりも一層打算的になつて、「短氣を起して馬鹿を見た」と云つた悔恨の情でくよ〳〵する。打算で行動せず、感情で行動し、後で打算する様になるから追付かない。何時も馬鹿を見て居り、何時も失敗ばかして居る。從つて誰れよりも餘計に愚痴つぽくなり、センティメンタルになる。純潔な感情は好いが、それが生活の事實を裏切る様な事をしたんでは何にもならない、事實に於て、今の社會で、プロレタリアにもせよブルジョアにもせよ、打算を超越して生活し得る様なものは一人もない打算的でないかの如くに見せかけても、それは虚僞である多くのアナーキスは虚僞に陷るまいとして虚僞に陷つて居る。それがアナーキストをして偏狹なものにして居る。勝敗を眼中に置かず、只感情滿足を以て能事了れりとするならば文句はない。苟も敵を前に置いて勝敗を決せんとし、勝利を目的として戰ふならば、打算戰術が行動の重大關心事でなければならぬ。

最近、加藤一夫氏が發表した「自由人の生活意識」に表現されて居る限りの、自由人の思想に就いて云ふと、自由人の生活意識と云ふものは、その前提とする所は多くの場合正しい。が、その手段或は戰術に於て全く無關心であると云つて好い。一種のダダイズムである。人間の慾望或は衝動を絕對に尊嚴なものと見、人間はその慾望或は衝動に從つて、之を出來るだけ自由に、濶達に表現することに絕對の價値を認めるものであるから、他の一切の相對的價値としての[illegible]も、能ふ限りのベストを盡して之等と戰つて、その慾望乃至衝動の表現を自由にし濶達ならしめねばならぬと云ふ主張を持つ様になるのである。

自由人の生活意識に於て、戰ひの意識とは即ち根本に於てその意味の戰ひの意識である。個人の慾望の表現を自由ならしむる爲めの戰ひである。必ずしも階級鬪爭或は團結に依る鬪爭を意味するのではない。と云つて必ずしもそれを否定すると云ふのでもない。若しその場合、個人が階級鬪爭或は團結に依る鬪爭の形を取りたけれぱ取ると云ふのである。何れにしても、個人はその戰ひに於て全力を盡し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て戰ふのであるが、初めから必勝を期して戰ふのではない。只、戰ひたいから戰ふのである。戰はずには居られないから戰ふのであると云ふのである。勝敗を眼中に置かないのである。勝てば勝つで好し、敗けてもそれは自分の力が及ばなかつたのだから、只仕方がないと觀念する。どちらにしても、個人はその結果に就て大した責任を感じないのである。

之が加藤氏の所謂自由人なる者の特徴である。自由人はアナーキストでもなければ、ボルシエヸストでもないと云ふ事であるが、慥かに、この「自由人の生活意識」に表白された限りの自由人に就て見れば、それは事實である。

自由人は戰ひの必要を感じる。併し、「何うしたら勝てるか?」といふ手段或は戰術に就て、全く無關心である。(勿論、之は思想上の事であつて事實に就いて云つて居るのではない。事實は自由人を以て任ずる加藤氏自身、戰術に就て決して無關心ではない。)戰術に就て無關心な者は、慥かにボルシエヸストではない。それではアナーキストかと云ふに、どちらからと云へば、アナーキステイツクではあるが相互扶助と云ふ事を强調しない。相互扶助に依る團結と云ふ事をモツトーとして居るのではない。所を見ると、アナーキストでもない。が、ボルシエヸストの强制的な權力意志の是認――無產階級の獨裁と云ふ政治意識を極端に排斥して、寧ろ人格的結合に依る力と云ふものを迎へようとする傾向からすると、自由人取りも直さず加藤氏はアナーキストに近いと云はなければならない。否、之を思想の方からでなしに、生活の方から見て加藤氏を論ずるならば、加藤氏は全くアナーキストだと云つてしまつても好い。その人の好い所、そのセンテイメンタルな所、その相互扶助的な所、惡魔的な冷酷な行動を絕對に取り得ない所、その意味で非現實的で寧ろ人道的な所、人を信じ易い所、之等の特質に於て、加藤氏は實際アナーキストである。

加藤氏は今、自ら藝術家を以て許し、詩人を以て任じて居るのであるから、どうでも好いが、「この自由人の生活意識」の讀者に對して、自由人の思想を實行に移す場合に就て最後に云つて置きたい。

自由人の思想は、一切の人間の自由な行動――自由な欲望の表現に對して內部的な自制力でなく外部的な金力を以て制限を加へて居る今の資本主義の社會に於て之を實行に移さうとすれば、勢ひこの金力乃至資本力に對して反抗的になり、破壞的にならざるを得ないのである。そしてこの

資本主義の社會が存在する限り、…………………………………………………………ない。が、生活に保障の無いプロレタリアが、團結の力を、組織の力を乃至は戰術の力を假りずに、何んなに反抗的態度を取つた所で、破壞行動に出た所で、それが二日と續くものでもなければ、一人で二日二晩寢ずにやつた所で、それで今の社會組織が根抵から覆へるものでもなければ、ビクともするものではない。それほど、資本主義社會は脆弱なものではない。必勝を期して戰ふのでなければ何うでも好い樣なものだが、敗けたが最後、プロレタリアは明日からマンマの食ひ上げだ、幾度反抗して見ても敵はないから、…………………………………………………於て勞働を否定して、ブラ〳〵そこらを彷徨しながら、友人の間を食ひ潰して歩く。そして何んな無責任なことをしても、虛無主義の名に於てそれを辯護する。成程、遊んで食つて、何んなに人に迷惑をかけても、それに對して一切責任を負はないで生きて居られる樣な結構な社會があるとするならば、革命の必要もなくなつてしまふ。一度でも本當の革命を實行しない中から、自分だけは二度も三度も革命をやつた樣な氣持になつて、大した革命家氣取りで、無政府狀態の社會人の生活を壓制的な資本主義制度が嚴存して居るこの社會で、そのまゝ實行されたんでは、その虫の好いのに避易する。自由人の生活がそのまゝ今の社會で實現出來るものと思ふから、こんな間違ひになるのだ。資本主義の社會には自由人は一人も存在し得ない。眞のダダイストさへ存在し得ない。そこに存在し得る者は只妥協的な嘘つきな人間ばかりである。我等は一日も早くこの妥協的な嘘つきの生活から解放されなければならぬ。…………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………………………………………………

…………………………………

決闘を讀んで

解放入選　堤清太郎作

堤清太郎そも何人ぞ？　自分は此の匿名の作者が誰であるかといふことの明言をさけよう。恐らく作者はそれを欲するに違ひない。しかし、此の決闘を讀んでゐるうち、自分の心のなかと、文壇の流行心理が浮んできた。それは大正九年頃だつたやうに覺えてゐる。此の決闘は一度、ある有名な文學雜誌の編輯者の手に渡つた筈だ。それが今日まで埋れてゐた。その雜誌編輯者は、此の作品の價値を見出してゐた筈であるのに、世の中へ出さなかつたのは、つまり文壇流行心理に支配された結果だと自分は見る。自分は過去現在にわたつて文壇を展望する。そしてかうした、三越や白木屋が婦女子の購買力を煽るためにつくり出す流行心理の篩にかけられて、あたら苦心流血の作品もどれだけ暗から暗に葬られたか知れないことを思ふ。それを思ふと自分の心は暗くなる。日本人の輕薄さよ！　と叫びたくなる。

此の堤氏を憶ふと、此の感を猶更ふかくする。しかも、藝術に生きんがために、氏はどんなに骨を削り、肉を削いて來たことだらう。幾度か絕望の淵をさまよつて來たことだらう。而も、文壇的に薄倖きわまりない氏は本年に入つてから、流血によつて短編集を出版しようとしたところ、無責任にも本屋はその原稿全部を紛失して了つた。何といふことだ！　私はそれをきいた時、胸をえぐられるやうな思ひがした。氏の相貌を眼のあたりにすると、私の心は哭く。無言のうちに私の心は哭く。氏が唯一の長編であつた黎明は文壇の流行心理が何等顧るところなく、暗のなかに葬つてしまつた筈であるが、主觀的なあの作品は、讀んだ時の私の魂にぐい〳〵と喰ひ入つたほど、眞實が溢れてゐた。當時それがあまりに主觀的であつた爲めにその價値を見出すものがなかつたに違ひない。現在の氏の心境は『最う創作などまだるつこいことはしてをられない』かも知れない。また、新な道として破壞の上に藝術を打建てようとしてゐるのかも知れない。

最近の虛無から無政府主義の運動へ、或は人類愛に徹しようとする――かうした心的動搖は、氏にとつて、當然なことゝ私は是認する。氏の幾多の內生活を知つてゐる私から見れば、氏がとつくに自殺をしなかつたことが、不思議なくらゐである。私のやうな忍耐强いものでも、氏が生活

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力を失はないのに驚かれるほどである。

しかし、思想のまに／＼行動するところに、現在の氏は光りを見出してゐることを私は信ずる。

過去に於て決闘を讀んだ時、知らず／＼感情を壓迫する力强さに打たれたものだが、今かうして見ると、觀賞が非常によくゆきわたつてゐる。冷たい批評的精神と、懷疑精神が背景となつてゐる。大自然のなかに、しつくりと人物を溶かし込んで、浮彫にしてゆく、描寫上のおちつきと餘裕を作者に見る。

が、かうした渾然たる作品は、氏の藝術の唯一ではない氏の藝術が、ほんたうに價値を生むのは、强烈な主觀の燃燒した作品に依つてゞある。氏は、さうした主觀的な作品を生むべき獨自性を持つてゐる。氏の獨自性とは生命力のそれである。その生命力を叩き込んだ作品こそ、新主觀的な、氏が獨自の藝術を生む可能性を語る。つまりそれは、現在の氏の思想を赤裸々に、一つの作品として表現してこそ眞實味が出てくるからといふのだ。

私たちの周圍のうちで、氏ほどむき出しに行動へむかつて自己を投げ出してゐるものがないらしい。それがあくまでも、眞劍な心持からの突進であると解する時、私は氏に頭を下げずにゐられない氣持となる。そして自分はにがい汁を飲むやうな、自分に對しての不愉快に責められる。自分はこれでいゝのかといふ氣持になる。深い惱ましさに突き落される。願くば此の行動が、私をして、足下にひれ伏さしめるやうなものであつてくれ。私の魂をぐい／＼と吸ひ込むものであつてくれ。かなり、勝手な言ひ分ではあるけれども、氏が私にとつて他人でないだけに、此の言葉を、吐かずにゐられない。

私はやがて、もつとげんしゆくな立場から、氏の名をあからさまにして、貧弱な智識の持主である自分を恥ながらも、過去現在にわたつて論評する機會の來ることを信ずる。それは氏の行動も氏の藝術も、刄のやうな鋭さを持つて、直射的に私の魂を貫く時にだ。

すぐれた氏の奔放自由自在な表現の筆よ。その生命のままに飛躍してくれ。飛躍してくれ。(賢三)

淺草と百姓の生活

『國境の夜』をよんで

ある夜のこと、自分は金龍館の汚ない、狹い樂屋の椅子

に腰かけて、重い不快な氣持でゐた、そこへ『幸福はなか〱こないな、』こんな科白のやうなことを言つて、ひよつこりはいつて來た男がゐた。

黒い半襟のかゝつたどてらのやうな着物の上に黒羅紗の羽織を着込んで、古くなつた黒の土耳古帽を冠つてゐる、まるで宗匠と言つた風な姿をしてゐる、

『流行のニヒリストだな、』と、自分は思つた、だが、いろいろ話し合つてゐる間に、自分は純粋に昂奮してゐる、あるふん圍氣にある自分を見出した、宗匠はなか〱元氣があり、頭腦が明晰であつて、金龍館の樂屋などではめつたに見られない男であつた。

とう〱二人は一緒に樂屋を出て、アメリカカフエに寄つて一杯のソーダ水と、ホツトウヰスキーを飲んだ、宗匠は高田保と言つて平林と同級の人であつた。

二日ばかりたつて高田君から葉書がきた、『秋田雨雀氏を第一の戯曲家としてあげてくれたことは感謝です……』こんな言葉を眞先に書いてあつた。この感謝の氣持、好意の氣持が、汚ない金龍館の樂屋を、純粋な昂奮で充たし、面識のない二人に樂しい印象を與へたのである。

私は今、最近表現座の關係から讀んだ、秋田雨雀氏の戯曲集『國境の夜』を批評せうとして、たま〱その夜のことを思ひ出したのである。私の批評は全く一言でつきる、『秋田雨雀氏は、日本で第一の戯曲家だ、日本に生れなかつたら、世界的に知られてゐる戯曲家だ』。

この小さな戯曲集には四篇の一幕物がのつてゐる、『國境の夜』『盲兒の幻想』『水車小屋』『舊藩主と火事』この四つの戯曲は、それ〱違つた意味で自分の心をとらへたのであるが、その内『盲兒の幻想』にながれてゐる、感傷と、『水車小屋』のもつてゐる内容と、純粋な百姓や女房達の描出は、最も感銘深いものである、『舊藩主と火事』は秋田氏の唯一つの喜劇であり、ゴーゴリの檢察官に似かよつたなか〱面白い味ひのものであるが、佐々木が例の調子でひどく賞め過ぎてあつたせいか、それ程に感心しなかつた。

『盲兒の幻想』は自叙傳の一節とことはつてあるやうに、青春に於ける作者の淡い戀にからませて盲兒の生活を書いたものである。かういふ作品に對して一般の批評家がとる態度は不親切であることは、明白である。彼等は感傷的でいけない、といふ一言で片づけてしまふに違ひない、だが誰が、これだけの立派な感傷を表現し得る戯曲作家が、日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本になる、この作品の持つてゐる暖かさ、やさしさ、美しさは、詩人秋田雨雀氏でなくして何うして表現出來るものか。

この作品はメエテルリンクの初期の作品と比較して決して劣るものでない、內容はちがつてゐるが『浸入者』『スタンダアルの死』などと同様に評價され可き作品である。『水車小屋』は百姓をかいたトルストイの短篇を讀むやうな感じのする作品である。實に立派な戯曲である。

かういふ立派な戯曲が、文化生活を喝仰する人々から喜ばれないのは當然かも知れない、而し自分達には、この戯曲は意味深いものの一つである。この作品にながれてゐる、百姓や百姓娘や乞食達の精神は、やがて到來するよき社會の一切を支配する精神である。

今、自分にとつて最も興味深い人間の生活は、淺草の生活と、百姓の生活である、自分はこの二つ生活雰圍氣の中に眞理を見出す、我々が探究してゐる一切のものがこの二つの生活の中にある。（洋文）

前田河廣一郎氏の『三等船客』

前田河の創作集『三等船客』の中で、たいていの人は最初の『三等船客』一篇だけを激稱するが、僕はそれでは前田河のほんとの價打ちを見落してゐると思つてゐる。

なるほど『三等船客』はいゝ。實にいゝ。新興文學作家の中でも、あれ位なものが書ける作家はちよつと見出せない。それほどいゝ。ずぬけてゐる。がしかし、僕に遠慮なく言はせるなら、あの一篇より最後の一篇『マドロスの群』の方がどれだけはるかにいゝことか。この點に就ては先日前田河と尾崎士郎と僕の三人が痛飲したとき、僕は前田河にそう言つた。――『三等船客』もいゝ。しかしあれには思想がない。いや無いことはない。ある。がそれが餘りに少なさ過ぎる憾みがある。けれども『マドロスの群』一篇には、實に恐ろしく思想がある。それはドフトエフスキーを想はせる。またゴルキイをも想はせる。『マドロスの群』一篇の前にはすべての、すべての今日までの作品はいはゞ序曲であつたと言つても過言でない――とさへ僕は斷言し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

た。同時に『この作品からこのまゝぐん〳〵前へ深く行つて下さい。僕は貴方が恐ろしい。』

とも興奮して言ひ足した。實際言はねば居られなかつたその時尾崎も僕に同意して呉れた。

×

『マドロスの群』の中では、技巧や文章の點から言つても僕たちが一寸眞似の出來ない個性が隨處にある。殊に最後の

『はたして暴風雨がやつて來た。あらゆる角度から船を亂射する雨は幾千の白い馬が甲板をめがけて疾驅して來るやうな波濤と相俟つて！』以下『深い谷から波濤の連亙に、死んだものゝやうに打ちあげられては、またすぐ引込まれる船、周圍幾浬かの水平線の一瞥をだにする遑もなく、ただもうびち〳〵泡立つた底氣味の惡い眼の前の水に、滿天の雨を浴びながら龜の背へでものつたやうに翻弄されるのであつた！』あたりの描寫のうまいこと、憎いほどである。僕はまだそれが印刷にまはらぬうち、發行元のおやぢ梅津英吉氏と二人で、『うまい〳〵』を連呼しながら讀んだものだ。これ位な文章でも書ける作家が新興作家の中に何處に一人ゐるのか？ ゐるかもしれない。否どうぞ多數がゐてほしいが、プロ派の作家は技巧がうまいとか巧くないとか言つてゐる藝術至上主義者の連中に比べて『フフンどんなもんだい！』と一本やらかしてみたい位だ。

それに最後の

『One at a time』以下

『野郎！ 早く出て來ねえと承知しねえぞ』――『中塚は拳をふりあげながら、彼の背後から寒さにふるへた聲を長く曳いて喫みつくやうに脅すのであつた』あたり、一寸日本のお上品な作家と違つて、ほんとの人間性を描いてゐる。すりむけた赤味をそのまゝ、見せつけられる氣持ちがする。おそろしい。

×

終りに、『三等船客』一篇を讀んだ人は、是非とも最後の『マドロスの群』をも讀んで貰い度い。――もつと詳い批評は來月の××雜誌で『前田河廣一郎氏の人と作品』といふのを書くから、こゝでは簡單に擱筆する。（淳三）

小林德三郎氏個展評

一九〇九年から、一九二二年間の作品十五點が集められ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゐる。『畫家の家族』、『鴛鴦』の二點の他は、皆な小品ばかりと言つてよい。常に作品の少ない方だとは聞いてゐたが、矢張りそれは本統であるらしい。

此處で一寸餘談にわたつて置くが、もう十年も前のことであるが、廣津和郎氏へ畫會の頒布畫として渡された風景畫を、高木背水氏の畫室で見たが、それは多分高木氏と共に朝鮮へ行つてゐるだらうとのことで、陳列されてなかつた。その頃のうろ憶へでは、氏の後期印象派の作品で、此處に展觀されてゐる、その頃の時代のものらしい『某婦人肖像』や、『母と子』などよりもずつといゝ作品であつたやうに思つてゐる。兎に角、その頃氏の作品は、僕等上京したての美術書生を驚かしたもので、師である背水氏の作品よりも熱心に見てゐたものであつた。

それならば、その頃の作品である、『某婦人肖像』が愚作であるかといふに、僕はそうは思はない。が、その頃の氏の人物畫には何かしら人物の顏面などに表れた、その頃の所謂青踏社の新らしい女風な氣分、――妙な言ひ廻しであるが、何處かそんな風なところが見えるやうだ。『母と子』にはそれはない。然し、それは此の一九二一年以後の作品の爲めの準備時代と見れば、殆んど總べてが許せるやうな氣がする。しかも、可なりラヂカルなものであるところの美術學校離れのした境地は、此の個人的歷史を考へる時に微かに笑ませるものがある。佛蘭西式の所謂紫派から、畫室の作品や、綠蔭小憩的作品を生んだ現代文明と美術學校敎育、氏はその害毒を殆んど受けてゐないかの感さへあるのである。

一九二二年は、氏の乘氣時代とも思はれる程に、多くの作品――といつても、五點を出されたほど、氏としては多くの收穫のあつた年であり、又最も心地のよい繪の出來た年である。『鰯』の一、及び『鰯』の二は何を語るものであるか、これと殆ど同じ意味のもので『鹽鮭』がある。『丘の一部』、『ステッキを持つ子供』に至つては、單純な技巧の中に、この頃の氏が一の境地を開拓されたと思はれる、澁さの中に心地よい色彩と平面の中に深さを思はせる作風、それを僕は最も心地よく見ることが出來たのである。

『いけだ橋』、『鐵橋』は關西旅行の收穫であるさうであるが、これは一個のスケッチと見るのが本統であらう。

兎に角、氏の進路は氏の本質的な地味さ、それが晦澁などゝいふ意味ではなく、蓮つ葉だとか、境地の甘さとか――――縱令ば帝展などで見る、女學生色をした繪や、ほんの少

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しばかりの學問から來た繪でなくつて、飽くまで本質的な氏の境地を離れず、順次に今日まで進んで來たといふ境地である。この意味から、僕は今後の氏に益々興味を强くするのみならず、期待し得ることの歡びを感ずるのである。

さもあれ、野島氏のあの宏壯な庭や建物を背景として、小林氏の五六年前からのものであるらしい、繪具の着いたズボンの上から、これも時代物であるらしいフロックを着て、如何にも謹ましやかにしてゐる氏の姿である。僕は氏と別れを告げながら、如何に時代的な皮肉を感じたことか。――小林氏の繪に就いては、こんな與太話でなく、もつと〳〵澤山書き度いことがあるが、非常な多忙と、頭を病めてゐるのとの爲めに、殘念ながらこれにて失禮する。小林氏、併せて讀者諸氏に謝びる次第。（弘二）

プロレタリアの少年少女雜誌のために

この正月からプロンタリアの少年雜誌が出ることになつてゐた。幼い同士のための雜誌を出そうといふとは隨分早い頃からの僕らの計畫であつたが、切角のところまで來てまた沙汰止みになつた。殘念である。私はその創刊號を機會に、僕に與へられた分擔として妹や弟らに今の少年少女雜誌について何んでも思つたものをありのままに書かして見た。雜誌が當分出ない模樣だから次きに私の手許にある分を發表することにした。

鎭八郎といふ子は僕の一番末の弟である。彼は今年小學校に入つた許りだ。人物畫をかくことを得意とする子供だがそれでもいい氣になつて感想を送つて來た。彼はその上の兄と二人で種蒔く人が出ると殆んど同時に「少年タイムス」と「幼年タイムス」といふものを發行し自らそれぞれの編輯人になつてゐる。爭はれないものである。彼らはいつか雜誌ごつこといふ獨特の遊びを覺えた。何んでももう來年の四五月まで出來てゐるそうである。そのうち何冊か彼らの手で、發賣禁止になつたそうである。「題言」とか「社論」とか人並なことを書かうとするから面白い。

「ジユンサ」、「ビンボウニン」といふ題はこつちから與へたものでない。そんなものがこつち向きだらうと思つてつかまへたものらしい、だが、チンパチロー君、お前の頭は小學校に入つてから、めつきり惡く變つたやうだよ、お前はよく交番に遊びに行つたといふぢやないか、その時おま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

わりさんに社會主義とはこんなものだと敎へてやつたそうぢやないか。

——山があるでせう、谷があるでせう、山を谷の中に埋めて平にすることなんですよ、おまわりさん、それが社主義なんだよ。

そういつたお前が巡査を見るとこはくなつたり、貧乏人を見るとおかしくなるぢや困るぢやないか。それでは幼いタネマキストにはなれないよ。（小牧）

我が現代の子供雑誌を見てどう思ふか

三　枝

それは中で面白いのも面白くないのもあるが、一般にいふと先づ餘り面白くないといふ方である。近頃ぞく〳〵として出來てくるお伽噺には大人の何だかわざとらしく造つたやうな無理にこじつけたといふ風があるので嫌いである。矢張私は有りきたりでも昔の歴史關係のある本が面白く感じる。實際をいふと「少女世界」にあるやうなあつさりとした少女小説といふ工合のものが夕飯後にちよつと讀まうかしらなど〻思つて好きなのである。私にとつて「赤い鳥」など面白くない方である。「譚海」など送つて來るとちよつと讀む氣がするが、然し前に何月號だか知れなかつたが「金の船」に山六爺さんといふのがあつたが可愛らしいやうな面白みがあつて其時分毎月かゝしなく讀んだ事があつた。先づ「金の船」は「赤い鳥」よりもましであると思ふ。「おとぎの世界」も惡くもないが何だか支那そばの笛のやうな哀れなやうな氣がしたり、鐵の靴のやうに長いのが續くと嫌になつてしまふ。さて例の少女雑誌になつてくると實に讀む氣がしない。あの肺病のやうな畫のそばに、つまらないハートが飛んだり逃げしたりしてほんたうに情けない。いつそ詩をつくるのにもつと健全な心で自分の思を飾りなく書いたらよさそうなものに。

少年雑誌も以前は男らしくよかつたが此の頃は海山越えて父母戀しなどの泣きさうなのが出るので困つてしまふ。中でまあ「少年倶樂部」がいゝでせう。然し「日米未來戰」などのあんなものを大きな見出しで書いてあるのはちよつと考へものだと思ふ。畢竟男の雑誌は男らしい事を願ふのである。なるべくは理科などの話を簡單につめて面白いのを満載して私どもの疲れを慰めて欲しいものである。近頃に於て一番面白く感じたのは有島さんの「一房の葡萄」あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。何と名狀すべからざる面白味でしたでせうほんたうにああいふ本を何遍か讀みたいでせう。ほんたうにあゝいふ本は何遍讀んでも飽きないものです。

「一房の葡萄」

玉井

私は大變面白く讀みました。ほとんど今までこれくらゐ面白いものは讀んだ事はないやうです。中にも一房の葡萄碁石を呑んだ八つちやん等は何だかなつかしいやうな感じがしました。ほんとに自分が經驗したやうな事だと思ひました。一寸島崎藤村が書いた幼きものに等に似てゐる樣な氣がしますが、併し私はずつと有島武郎が作つた一房の葡萄の方が面白う御座い居ました。私は思ひました。此の頃の少女雜誌はみなと言つてよいくらゐ少女ローマンスとかそんなものでいつぱいです。皆はそれで滿足してゐるのです。どうか少女雜誌にも有島さんの童話をたくさんかゝげて下さいするとローマンスとか言ふものがだん／＼すたれてくるだらうと思ひます。

私は教育話とか言ふものより、かへつて有島さんの童話の方が教育的だと考へます。

ジユンサ

チンパチロー

ジユンサヲミルトコワクナツテクル

ピンボウニン
ピンボウニンヲミルトオカシクナル

センセイ
センセイヲミルトオチギガシタクナル

グンジン
グンジンヲミルトオモシロクナツテクル

カネモチ
カネモチガトホルノヲミルトナンダカシヤレテイル

ボオルクロオデル氏の講演に就いて

十二月二日プロレタリア作家シヤルル・ルイ・フイリツプ記念會でなしたボオル・クロオデル氏の講演は、大正十一年度最終の日本文壇に投げつけた一つのマニフエスタシヨンとして記憶す可きものだと思ふ。

ボオル・クロオデル氏はブルジヨアフランスの代表者で

ある。しかもその大任が、一個人の資格に於てブルジョア日本に於てなしたるところの文學的意見は日本のブルジョア藝術家にとつての驚異であらねばならない。「フランス文學は知識階級の文學であつたといひ、またボリセヰキの人人などからブルジョア文學といふ非難を浴びせられたのも無理のないことであつた」と憶面もなくいつてゐる。フイリツプはクロオデルから大きな示唆を受けて彼の生活に大きな轉換を行はうと期待してゐたのであつたが、クロオデルは反つてプロレタリアの出であるフイリツプの作品を讀んで、彼自身ある眞摯な反省をなすべき機會を與へられたと告白してゐる。

クロオデル氏は何人も知る如く非常なカトリツク信者である。だのに、日本で多く見るやうな宗教氣分の卑劣な作家とは自らその進むべき道を別にしてゐる。日本の信仰作家の多くは各自勝手な宗教といふものを創つて、その中に回避しやうとする。それでいい氣でゐる。彼らにとつて民衆なんかはどうでもいいんだ。クロオデルはフイリツプについて何をいつたか。

「フイリツプの作品に對するとき吾人は考へさせられる。藝術家は果して加何なる態度をもつて作に臨むべきか。自分自身の考へよりすれば實に吾人は民衆のために製作しなければならない。但しここに「民衆の爲めに」といつた意味は「民衆を目當にして」といふ意味ではなく、「民衆に代つて」といふ意味である。吾人は光明に向つて躍進する民衆の代言者であらねばならぬ。この意味に於て初めて藝術家の立場といふものの認識が出來すると思ふ。

そこで僕らの結論はかうだ。そういふとクロオデル氏だつて嚴密の立場から見れば、左よりより多く右に偏した藝術家である。それだのにあれだけの反省をもつてゐる。日本の信仰作家の頭はどうだらうか。それからもう一つ官憲にいつて聞かしやりたい。ポオル・クロオデル氏の様な溫順な人でも「民衆に代つて」のために氣焰を吐いてゐるのだ、あたりまへのことをあたりまへにいつてゐるんだよ、解かつたかね、常に「プロレタリアのための人々」を壓迫しながら、汝ら自らプロレタリアの身分にしてブルジョアの味方をしてゐる者たち。(小牧)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界欄

赤色スポート・インターナショナルの第三インターナショナル參加

軍國主義の精神を鼓吹することを目的とする資本主義のスポート對抗し無產階級の赤色スポート・インターナショナル成立の必要についてはさきに本欄に於て紹介した通りである。去る二月下旬ベルリンで、その大會が開催されたそうであるが、赤色スポート・インターナショナル幹事は Jermann 最終日に諸團體の報告及び委員會で可決された決議の朗讀をなした。勞働者スポート團の統一ある指導に關する宣言は拍手の裡にそれを各國のスポート團體に送ることに可決されたのであつた

第三インターナショナル參加の議案はドイツ代表の提出にかゝつたものであるが、フランス側の多少の修正を見之も亦芽出度く可決を見た。Ponowski の體育に關する報告、Lieske プロパガンドに關する報告及び Jermann のインターナショナルに關する報告はそれぞれ何等修正を見ずに可決し、議長ボドラスキイは盛會裡に赤色スポートインターナショナル第二回を閉會した。

世界語とロシア

世界語調査會は第三インターナショナル第二世界大會の決議によつて組織されたものでその後第三世界大會は該調査會の權能を公式に承認してゐるのであるが、今回世界語選定としてイドを採用の決議を作成した。これと同時に、世界語調査會は Hans Itschner の名に於て、「今後イド語の出版に特別の便宜を計られたき旨」國立出版局並に洋紙支給局へ通達した。

その結果ロシアでのイド研究熱は俄に熾んになり幾多の講演が開かれ各種の出版物が刊行されることになつた。「ロシア共産主義イデイスト聯盟はこの春機關誌 Nid Standardo を創刊したが、その內容は次ぎの如くである。

「メーデー・ヨーロッパの復舊、ツヴィエットと勞働代議飢餓（レーニンの執筆でイド、エスペラント兩譯）、

ロシアに於ける教育と文化、世界のプロレタリアと世界語其他

エスペラント大會

八月十日朝フインランド國文部大臣司會の下に、ヘルシングフオールに於てエスペラント大會が開かれた。そしてドレスデガ駐在フインランド領事 Frenckell が議長に、又、Sandstrim（フインランド）及 Privat が副議長に、Saharis（エストニア）J. Merchant（イギリス）Dr. Arnhola がそれぞれ同大會の役員になつた。

議長は先づ名譽會員のメンホフ夫人を歡迎し、次いで Setala 教授（フインランド）及び Dr. Privat は世界語の必要とエスペラントの勝利を確信する旨の熱辯的演説をなした。かくて、三十二箇國の代表は Dr. Vauwerts フランス）及び Prof. Saggiori（イタリ）宛に大會から敬意を表することに決議した。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

イデイスト大會

イデイストの世界大會は去る八月五日ドイツのデサウに於て開かれ、チエッコ●スロヴアキア國元京院所屬共產議員 Chlumecky がその議長になつた。

La "Kommunista Ido-Federuro Internaciona"（K. I. F Intern.）は目下、ドイツ、オーストリア、チエツコ、スロヴアキア、ロシア、フランス、アメリカ、メキシコにその加入團體を有してゐるが、上記所屬團體の大部分はその代表をデサウに送り、その他に勞農ロシア救濟萬國勞働委員會からも一名の代表を送つてゐる。

同大會がチエツコ●スロヴアキア共產黨並に同國赤色スポート團とメキシコ共產黨は公式にイドを採用することに決し他の諸團は一且研究することにした。

幹部委員會には Grünwald, Adaru, Marget, Voigt, Baren 及び Milter任名を見、Baren及び Milter の二名はモスコウの事務局附となり同地から、機關紙 Nia Standardo を發行することに決した。幹部會は決議を實施し、特にK. I. F. I をして各國の共產主義團の活動を援助せしむること。

來年度の大會は八月ドイツ、カッセルに於て開くこと、そしてドイツ側が之れが一切の任にあたることに決し、最後にデサウのイデイスト大會は大要次ぎの宣言を發表した。

La "Komunista Ido-Federuro Interciona" は第三インターナショナルの原則に基き、勞働階級の中に喰込み、常に革命イデイスト團 Emancipata Stelo と聯絡を保つこと。各國のイデイスト團體は出來る丈け團體的に、然らずば個人的に K. I. F. I に加盟することを約す。

共產主義イデイスト聯盟は第三インターナショナルの一切の決議を承認し、世界語宣傳のため共產主義エスペランチストと步調をとること。しかし如何なる場合と雖も語學上の爭を避け凡ての共產主義者は第三インターナショナルの決議を遵守しなければならぬこと云々。

種蒔き詩集に就て

過去一年に於て、本誌でもつとも活躍したのは『犇人欄』ではなかつただろうか。僕はいつでもそれを內心で思つてゐる、で出來ることか出來ないことか一寸見當はつかないけれどもその『犇人欄』の詩ばかり集めて『種蒔き詩集』を出版したいと思つてゐる。それは現在の日本詩壇へなげる爆彈のつもりである。否、單に詩壇ばかりでない。藝術至上主義者の手淫文壇への、大きい反抗だと思つてゐる。でさしあたり一册五十錢見當で、今から豫約をしたいと思ふが、多數の兄弟たちはどう思ふ。すばらしい希望者が（約二百人も）あれば直ちに實行するから一應申込んでみて欲しい。しかし豫約が思はしくないやうなら、きつぱりやめるつもりである。もとより金もお返しする。でこのことに就ての通信其他に就ては、便宜上から本社內僕宛にして貰ひたい

以上、臨時責任者松本淳三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聳人

日本のモスコーより

鹿島生

僕等は「種蒔き社」の同人諸先輩に感謝する現實革命と藝術家ゴリキーに就いては前から僕等が同志的インテリゲンチュアーに對して考へてゐると同じ事を話して吳れた。

九月のプロレット號も大變まとまつて居つた。今の十一月號もどうやらやられたらしく思はれる。市の本屋へ一册も「種蒔く人」が來ない內から「今月號は發賣禁止になるらしい」と忠告してさる階級の人が步いたさうだ。御蔭で僕は他へ手を廻して無事拜讀の光榮に浴した譯です。

しつかりまとまることは御上の御意に召さないと見えて度々有難い抉殺の洗禮を受けますね。それだけ「種蒔く人」の力强いことを裏書してゐる。僕等は先づ「耕す人」だ堅い堅い低能兒の化石の頭の仲へ、有難い僕等の人間味を洗ぎ込んでゐる。矢張り眞劍な正しい熱は化石にでも傳導して行く。K市にも××（學生）の思想研究會が二つ出來た。やがて運動も白熱化して行く。勞働者と農民へ！ それが僕等の全部ではない。ブルジョア敎育の行き屆いた靑年團へ。白蟻の樣に喰ひ込んで行く。そうして、インテリゲンチュアーと勞働者の間をうまく隔合される必要も感じてゐる。

K市にもアナアキストがやつて來た。個別訪問して反ボルの宣傳をしてゐる。協同戰線の不必要論を說く、無產階級の獨裁を否定する。

併し、K市には僕等が居る。アナ宣傳にへこたれたる、感心する英雄は一人も居ない。僕等の敵は誰だか、よく知つてアナと戰ふのは本意でない事も知つてゐる。[illegible]

認め直線的にそうして曲線的に進んで行かう

國粹會が何だ。〇〇〇〇〇。〇〇〇〇〇。
僅か卅三万圓で日本の思想界をひつくり返さうとする馬鹿はちつとも恐ろしくない。
同志よ。同志よ。
我々は、我々解放運動の前衞部隊として、[illegible]

猫の眼

土崎港　黑谷　百苦

贅澤がひどい勢ひではやる。貧乏人はひどい勢で增へる。贅澤の出來ないものは貧乏人だ。多くの勞力と原量と食つて、貧乏人のためにならないものは贅澤品だ。それをつくる者は自分たちの必要をつくれない貧乏人だ。そこで貧乏人は貧乏し、金持は贅澤する。

百三がはやる。豐彥がはやる。本は飛ぶ樣に賣れると云ふ。賣れれば賣れるほど勞力と原料が食はれる。二人とも人類を救ふと意氣込んで居る。神樣が救ふと云つてゐる。無論貧乏人も人類に含まれる。そしてそれは大部分だ。しかし貧乏人はさつぱり力を得ない。そこで貧乏人は思つた。（あれは贅澤品だ）ここにプロレタリア藝術の根本がある

武郎は裸になり寬は床り入り。莫大な農場

を投げ打ち共產黨宣言に今ある一致點を見出したり、感心したりして、武郞殿御はたのもしがられてゐる。「あまり生活に餘裕が出來て心がゆるむ、そのため洋行でもして來る」と云つた寬はまだ行かず、暖い床に入つてゐるそれだけにくく〱しい。しかし、裸になつたと思はれる武郞の生活と、餘裕あると稱する寬自身の生活と（この生活は物質的の）、そこに幾何の差があるか。

同志はふえて行く

深谷　赤人

會社から歸りに本屋へ立寄つてゐる處へ巡査がやつて來て東京發行の前衞があつたら見せろと主人にどなつてゐる。何がさて露西亞革命五週年記念號とあるから警察も神經過敏だ、何でも巡査によると十一月七日を忘れるなとか露西亞革命を記念せよとか書いてあるのが不都合だとあるといつは面白いに違いないと思たので翌日、本屋に尋ねると物騷な事を書いて無かつたと見えて發賣禁止だけは免がれたと言ふ、早速買ふて讀んだら素的に面白かつた。友達に見せたらドイツもコイツも不屈至極にも面白いと言ふ奴作りだ類は類を以て集まるとはうまく言つたものだ友達の話によると前衞は友達へ今廻つてゐると言ふ。俺の處へ歸る時分は手あかで黑くなつてゐる俺達の讀んでゐる雜誌は社會主義研究種蒔く人前衞だ尙今月から社會問題研究と無產階級とを讀む事にした俺にも俺にもと本の借り手が多くなつて來た。面白いぞ、どうやら世の中が面白くなつて來たぞ去年の今頃は同志二三人だけで淋しかつたが今年は十人近くになつた。吾々は大いに活動し樣と力んで居る。

藝術家の群

魅鬼　魔津

來る〱偉い藝術家が
エルマン。ジンバリスト。シューマンハイク。
さてはアンナ・ハウロヴ。カスリン・パーロー
踊りたくば踊れ、唄ひたくば唄へ
肉に飽滿した老紳士や低能なドラ息子の爲に
あはれ噴火口上の舞踏者共よ

藝術の宮の奧深く隱れた君達が
幾人ステージに世界的を誇るとも
明日の糧を煩ふ俺達に何の係りがあらう
藝術、音樂、舞踏
フン、馬鹿らしい
それが如何したのだ、畜生！
今に見ろ――
フツト、ライトの影に潛む
あの勞働者セキリオフの
ひとみに怖れろ
赤色露西亞で困苦と戰ひ
貧しい民衆を友として
虐げられし者の靈を慰めつゝある
ロシアが生んだ眞に偉大な術藝家
イサドラ。ダンカンを憶ふと
俺は淚がにじむ。

――（一九二二十月）――

感謝と不滿（不滿は麻生久樣へ）

越後三條　中山　武夫

主義者だなんていふと、まるで殺人狂ででもあるかの樣に考へてゐる、田舍町に一人の同志もなく每日苛々して活してゐるので、「種蒔く人」がとんでくると數万の味方を得た樣に嬉しい。

ウヌはブルジョアの强慾を滿す爲に生れてきたか？

突擊を血祭に、起て！　エ、意氣地なし奴と自分に嘖められつゝも、喰ふ爲にのみ囓りついてゐる、仕事等は（俺は今染物をやつてゐる、それは好きでやりだしたのだが染物をやつてをる自分やたの友らが寒くなつて着る着物に窮することさへあるのに遊んでゐやあがる奴等が大島絣を着た……と思ふと、とても資本主義のもとでは愉快に働けない。そし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て今は全く喰ふ爲にやつてゐるばかりだ）放つぽりだして、俺は一氣に讀む。

「種蒔く人」よ。貴樣にとした良藥はこの俺にはない。有田音松ぢやないがそこらにうようよ〳〵してをる「出家とその弟子」讀まなくちや面――の錦紗羽織やセルロイド眼鏡の文化主義者連に煎じて飲ませたい。

俺は「種蒔く人」を心から愛してをる。だからそれに一寸でも合點のゆかぬ點があると默つてをれん。

九月號の「死體の發掘」の中に

「瓦斯だ！畜生！瓦斯だ！會社の野郎！」

憤怒、不安、悲痛、罵倒、恐怖、呻吟、呪咀、人間の有する感情の惡に屬する部分――以下略と云つてゐるが、

强慾な會社が坑夫の生死等には針の穴程の頓着もなく。「嗅いぞ、出る人ぢやねえか」とつぶやく――坑内へ坑夫をいれて、その妻子や友の坑夫等が

「瓦斯！畜生！瓦斯だ！會社の野郎」と口々に叫んで「夢中になつて駈け」出さねばならなくなる迄作業させてゐる――その强慾さ、坑夫の最后の一滴の血をも搾りとらうとする會社の慘忍にむかつてわいた。

「憤怒――中略――呪咀」卽會社側の惡を排せんとする坑夫等の善なる感情の發露が「人間の有する感情の惡に屬する部分」であらうか此際は寧ろ反對に「人間の有する感情の善に屬する部分」といふべきぢやないだらうか

おそらくこれを書いた麻生氏は憤怒それ自身――中略――呪咀それ自身が「人間の有する感情の惡に屬する部分」だといつてゐられるのであらうが、そんな解釋法は、勞働運動指導者麻生氏にはゆるされないことである、なんとなればプロレタリア社會には現實を離れた善惡といふ樣なものは存在を許されないからである。

又、憤怒、不安、悲痛、罵倒、恐怖、呻吟呪咀がプロレタリア社會では屢々「人間の有する感情の善美に屬する部分」と認められたことも事實である。それは丁度戰爭を嫌ふ社會主義者が、勞農ロシアに劍をもつて向ふ軍國主義帝國主義國のあつた時、勞農ロシアが劍をとつて應戰することを是認したが樣に。

（共同戰線をより頑强にせんが爲これをかく）

ひつぱられて行く彼の後姿を

京都　A　子

ふざけるな！
いやにおどかしつけて
空威張な笛を鳴らしやがつて
のさばつて行く自動車
白粉くさい自動車
酒くさい自動車
貧民共の唯一の
かけがへのない首をしきつめた街の上を
ふざけるな！
せい〳〵今の中に威張りちらせ
〇〇〇ほとばしり出た〇〇海が

前過三犯で
又も五年の刑をうけて
引ぱられて行く彼の後すがたよ！
影のうすい　しかしおごそかな姿よ！
あゝ只貧の故に
只々それ丈なんだ！
彼の瞳よ嘆いて呉れるな
彼の足どりよ力强くあれ！
今に、貧も苦勞も
笑つて話されるよ
その笑顔で今に迎へに行くからね！

お腹が空いたよ――
何故うちには御あしがないの？
何故あたしはお芋が買へないの？
雨が降つてるのに
何故うちには傘がないの？

あたしのあしだもないの？
小さいかあいゝ妹よ
今にわかるからね
おとなしく
何も問はないでおくれね！
そんなに考へこまないで――
笑つておくれね！

涙も出ない秋雨の淋しい日

僕達は戰かふ

秋田　進藤和助生

田舍の人間は純潔だとか、温順だとか言ふた年代は過ぎた。流れた。僕達は生活の安定が徹底的に與えらるゝ迄は假面の奴さん達と戰はねばならぬ。

何故だ？　何故つて社會は然うして呉れてるよ。見よ？　田舍の小ブルジョアを！（僕は都人士でないから都會の事は都會の兄弟にお委任する）彼等は黒塀を廻した中に安心立命、然して馬鹿の骨頂を盡して無智の甘露をあほつてゐる。その下にある我々はどう云ふ態をしてゐるか。僕達の許し合ふ事の出來る兄弟達よ。聞いてくれ。

僕の村は大小ブルジョアが居る。大なるは三菱の腐敗しかゝつた强腹を有した鑛山ブルジョアだ。次は村有地を食ひ村民の心血を吸る村會の小ブルジョアだ。彼等村會議員は三菱の番犬として僕達自作農（あるかなしのそれでもなければ食はれぬ）の心血を絞る爲に過税の議決をするし、何のかのと寄附金を徴發しては飲む食ふの大騷だ。我々の祖先はそれの奴隷となつて永い年月を徒費した。

おゝ兄弟よ！　それのみか？まだあるんだ弱者を殺すは極く容易だ。僕達が生活の至難をも省みずに作つた堤防は全く彼等の爲に使用されて居る、今年の樣な旱抜には僕達の樣に川上げのない田地を持つた者は、忽ち破産とならねばならぬ。酷から酷へ！と彼等は横柄な八戸面（はちのへつら）を振りながら大きな馬鹿げたホラを吹いてるとはなんと言語同斷な事だ、そんな奴等に下つ腹を擦て嫁入りさせる馬鹿も無類にある。

[illegible]

遠慮はいらぬ。己が貧乏して他人に腹を肥さした處でなんになる。自分達の兄弟は、天才は彼等の爲に皆土に埋もれてるんだ。それが彼等の罪惡だ。

[illegible]

るのが僕達、種蒔社同人と愛讀者と同主義者のみだ。

[illegible]

一九二二　六　二五

少將樣の講演

佐世保　幽汀

海軍の或少將樣が『思想問題に就て』と仰山らしい題で吾々兵卒に御話し下さつた。之は有難い事だと思つて神妙に聞いて居ると『此頃社會主義とか言つて愛、自由、平等とか言ふけれ共それは或一部の世を呪つた人達の病的な思想だ』とさ。

軍國主義のお前達にはそれ位の事しか考へられないだろう。

ブル氣たつぷりのお前達はどうしてそんなに間抜だろう？

少將うんざりするじやねえか。

種蒔き社の有る事を知つて種蒔同人及讀者にお照會する。

百姓と大砲

SH生

垢じみた縞の袷、半襲色の黒紋付を着た田舍のおぢいさんが、兵曹さんに案内されて、ミリタリズムの花形、軍艦〇〇の見物に行つた。

五度ばかりの俯角に低くなつた十四吋砲の下を通りかかつたときおぢいさんは立ち止つた。骨太いアカギレのした指には、膠なる大きい鉈豆ギセルがつまみ出された。そして頭の上の砲身を無遠慮にカン〳〵と探り始めたびつくりした兵曹さん「おぢさん何をするとかね」

「いや兵曹さんこりやみんなカネで造つてあるとかのオ」といひながら探く手をやめた。

「冗談云つちやいけないぜおぢさん。木といつたらこの下に敷いてある甲板ばつかりで、その外どこといつて鐡でないところはないのだよ」

「ホホオなアるほどのオ——これぢやこの頃鍋釜やら、鋤鍬なんかのネダンの高うなつたとも當り前かのオ」

私はこの對話を、無自覺な、ある一海軍關係者から笑ひ話として聞かされたとき、たまらない氣持になつた。すぐ投書しようとしてペンをとつたが、涙さへ出て書けなかつたから、今再びこれを書きました。

百姓のおぢいさんは何も知らずに、たゞ偉いことと感心したでせう。見てゐた水兵たちは百姓の無知を嗤つたでせう。そしてそれ等百姓を水兵も、偉大な(?)軍艦によつて何を與へられ、何を贏ち得てゐるのでせう。

ロシアの會

青森　胎盤社

ロシアのための會を眞面目に靜かに開くことが出來ました。緊縮したいゝ會でした。寄附も比較的多かつたやうです。

發賣禁止の恩命に、また〳〵浴された由、胎盤社一同からお喜びだかお弔みだかを申上げます。

人類のために益々御奮闘のほど祈り上げます。

婦人雜誌を撲殺せよ

M生

僕は十月の改造を讀むだ、現代雜誌婦人批判として小泉慶大教授、山川夫人、室伏高信の諸氏が筆を揃へて種々の方面から批判してゐたが何も改造に出る迄でもなく婦人雜誌の如何なるものぐらいは現代識者は了解の事と思ふ。各方面から論議してあるから識者が讀んだからと云つて感興淺からざる事は疑ない事である僕は山川夫人のサッカリン料理の婦人雜誌には興味を覺えた譯に現代所産の婦人雜誌に之と云て生氣發剌たる男子雜誌をも顔色なからしめるものがあるや否出版雜誌中の大多數の婦人雜誌に一として之らしいき元氣旺盛な男性雜誌にショックを與へるものがあるか「無」の一字で總てが解決であらう。

■

平常よく騒ぐ尋常二年生がロシャの飢饉の話をするとき靜にしてよくきいて吳れた。三年生にも話した。そして合計淨いお金が十七錢集つた。今日は六年生に話した。まじめになつて一心に聞いて吳れたからうれしくてたまらない。とりあへず前記のお金だけ今日前衛社に送つた。　九州田舍の一教員より

■

九州地方にて早く講演に來ていただきたい』ロシャの飢饉なんて初めてきいた』なんて笑はせる奴がたくさんゐる始末。

風樓にみつ

A生

實際小學校にゐると九月號の「少年教化——」にいつもぶつつかる。そこで吾輩の配役は？　本か準か代かそれとも長か。まさか。若い男教員「法令にはないかも知れませんが休暇中の日直は女教師にしてもらつてはどう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

だらう」

女教員一同「やりませうお互に助け合ふことになりますからやりませう」

校長「いけません！」

男教員「いけない理由は？」

校長「度々いふことでありますが、風紀上の問題の起ることもたしかにその理由の一つであります――」

若い男教員「女子に出來ない仕事で男子のすることもたくさんある女子の出來る日直は女子で仕やうと双方共理解の出來てゐるのに、風紀上の問題なんて人格を無視した理由のもとに獨斷でこれを却けるとは（激昂して）あまりに部下を侮蔑した而かも時代に錯誤したことではありませんか？」

男教員K「ためになるいいことは早くおとり上げなることを希望します」

校長「ようごわす（顔をまつ赤にして）いくらでも不ためになることとしなさい！」金ぶち眼がねをはづしてポケツーに入れペンをシースにしまふ。

不穩の沈默續く。山雨將に至らんとして風樓に滿つ。

犬小屋と火事

秋田　土崎加賀町人

世の中も面白くなつてきたぞ。犬小屋から火が出るなんて。防火宣傳てな奴をさかんにやつてゐた犬小屋の連中がどうした風の吹き廻しかものもあらうに

瓦斯ボンプから火を出すなんて。

燒けくそに半鐘ばかり叩きやがつて。

俺らは犬小屋に見舞に行つてやつたが蒼い顏をしあがつてキヨロ〳〵してやがる。この調子ぢや世の末も判つてきたぞ。

變る世の中

佐賀　佐久間生

プロレタリア作家が何だとか、カンだとか言つてゐる間に、ブルの奴共は自分から變になつて來たぢやないか。寛が女房に離緣を迫られる。百三が發狂する。其處でプロレタリア作家共、褌をしめてしつかりやつてくれはる〳〵九州からお賴み申す。

ア博士に回答を求む

相對性原理で知られてゐるアイシユタイン博士は、世界大戰中、徹底的に反軍國主義を叫び、バルビユス等と共に平和運動の促進に盡力したお蔭で、光榮ある『國賊』の名を浴びて祖國を追はれたことのある人だ。我が種蒔き社は、ア博士が日本を去るの日近き時他の同志と計つて左の電報を京都の旅館へ送つた。――但し、この稿の締切までは未だ博士の返事がなかつた。博士の秘書からは、確かに手渡しの返電があつた。

――日本青年（インタナショナリスト）プロレタリア・グループは、教授が大戰中徹底的な反軍國主義者としてとられた態度に對して深甚なる敬意を表する。教授が日本の地を離るゝに際し、次の諸點について如何なる見解を持たるゝかを知るを得ばそれによりて日本青年に貴下の考へを告ぐることを得るなら、吾々の最高の喜びである。

一、貴下は日本の〇〇的帝國主義政策について、如何なる見解を有せらるゝや。

二、貴下は、日本青年に何を望まるゝや。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會主義講座（四）

——十八世紀に於ける社會主義、マブリとサン・シモン——

マブリに就いては、餘り長く記述しまい。何故なら、マブリも、新しい道德の上に共産主義を創建しようと努めた十八世紀の他の共産主義者と同一の部類に屬してゐるから。

マブリはモレリと同樣に、私有財産が換起する惡德感情即ち強烈な所有慾を批評する。彼は非常に正確に且つ雄辯に、私有財産の一切の結果を物語る。而して平等を人類の眞の自然的基礎と見なして、社會の悲慘を人間性に歸せず、私有財産の組織に歸した。

マブリの人物に就いて一言しよう。彼は一七四九年ログルノオブルで生れた。親戚に要路の高官があつたがため、彼は當時の一切の外交問題に關聯した。大學者であり、功績もあつたけれど、彼は、リシユリユウ賞讃の辭を述べるのが嫌さに、遂にアカデミイに入らなかつた。

前述の樣に、マブリは道德論者であつた。即ち空想的社會主義者であつた。この空想家は前回にも言つた樣に、多く非革命主義者である。自分は反革命家だとは言はない。それは全然別の事である。反革命家と言ふのは、階級若しくは個人の利害を以て、革命に對して激烈に戰ふことである。非革命主義者といふのは、革命に依らずして、社會を改良せんとするのである。彼等は一切の暴力的破壞を恐れる。そして穩和な方法で社會を改良せよと主張する。所がマブリだけは例外であつた。彼は事實から言ふ。「——る。」

これがマブリが他の空想期の共産主義者と異つた唯一の點であつた。

マブリは大革命の數年前、即ち一七八五年四月に死んだ。

さて愈サン・シモンに說き及ぶ。サン・シモンは特に吾々の興味を惹く。彼と共に社會主義の新時代が始まる。それは科學的時代である。先づ彼の生涯を簡單に敍述しよう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

サン・シモン伯爵クロオド・アリンは一七六〇年に生れ、一八二五年に五六歳で死んだ。彼は眞の王族の末裔である名門の出である。自身ではシャルルマアニユ大帝の子孫であると思つてゐた。これに就いて、ミシユレエは「十八世紀最大の文學者の一人と、最も大膽な思想家を出した事で十分である。」と言つた。前者は、「追想記」の著者で、ルイ十四世の宮廷生活を物語つたサン・シモン公爵の事であり、後者は、現代社會主義の先驅者である、わがサン・シモンの事である。

幼年期からサン・シモンは獨立不羈の性格を持つてゐた。その最初の洗禮をも、僞善の行爲であるとして、拒絶した。そこで父は彼をサン・ラザアルの牢獄に送つたが、番人から鍵を奪つて脱獄した。

サン・シモンは當時の習慣に從つて、軍隊生活に身を投じた。けれど軍隊を甚だ嫌つた。北米獨立戰爭中、ラファイエツトの隊にあつて戰鬪した。靑年期に既に大望を懷き、下僕に命じて、「伯爵樣、太事を抱えた御身であることを、思ひ出されませ。」といふ言葉で、彼を鼓舞せしめた。

佛蘭西に歸つた時、大佐になつたが、まだ漸く二十三歳であつた。一七八九年の革命の時には、自由思想に共鳴して、君主專制を制限する立憲制度に贊同した。然し政治運動には參加しなかつた。この革命の時、彼はプロシヤ男爵フオン・レエデルンと協同で、國家財産に投機して、産をなした。後半生を知らない者は、彼を革命成金と見るであらう。然し、後に研究のためにその全財産を消盡した。

サン・シモンは王侯の如き方法で研究した。學校へは行かずに、自邸に大學者を招致した。また一科學の研究のためには、それの專門の學校の側に居を移し、他の科學の研究のためには、また他に移つた。かくして、後には貧困の極に陷つたが、彼の富を利した學者の中でさへ、誰一人彼を救ふ者もなかつた。只彼の下僕だけが彼を助けた。生活のため質屋の寫字生となつたが、而も悲慘のため自殺を企てた事もあつた。これが最も深刻な人生問題の研究者の晩年であつた。

次に彼の學說に及ぶが、サン・シモンは研究法として四個の法則を作つた。次にその全部を示す。

第一、盛年期に最も活動的な獨創的な生活を營むこと。――サン・シモンは生活は書物や講義で習ふべきものでなく、自ら生活すべきであると考へた。

第二、一切の科學的理論に、特に天文學と生物學に通達

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

することｏ——彼は社會科學は自然科學の如く正確でなければならないと考へた。これは彼の弟子で實證哲學の創設者であるオオギュスト・コントが承繼した。

第三、社會の各階級を遍歷すること。多くの異つた社會的位置の中に個人的に投じ、且つ自己及び他人のために、存在してゐなかつた關係を創ること——これは第一法則の應用である。即ち種々異つた形式の下に生活して生活を知る事である。

第四、諸經驗の結果である事實に對する一切の觀察を概括するために、その老年期を利用すること。且つ新しい哲學說を形成する樣な樣式でその諸觀察を結合すること。

サン・シモンはその唱へる社會改造を新しい道德だとは考へなかつた。寧ろ新しい科學だと考へた。歷史の決定的要素は知識であると彼は考へた。從つて社會を改造する前に、先づ新しい社會科學を建設せねばならない。而もそれは博物學の樣に正確でなければならない。何故なら、社會變革の目的即ち社會理想が、眞面目に受容せられる爲めには、その理想が單に吾々の希望、吾々の正義平等の觀念に立脚するだけでは駄目である。社會理想は歷史的事實の中から引出されなければならない。それがためには歷史を知る必要がある。それは戰爭史即ち王朝や國家の間の爭鬪史ではなく、眞の文明史、即ち勞働の歷史とか科學の歷史である。かうして社會理想が、吾々の想像から出るのでなく歷史的事實から發見せられた時には、知る事は豫見する事となり、知識は行動の武器となる。そして社會變革に到達するのである。以上がサン・シモンの根本思想である。

是に依つて見ると、サン・シモンが從來の空想期の社會主義者を凌駕してゐる點は、何よりも歷史を重んじた事である。即ち社會理想を單なる夢想と見ず、歷史的事實の論理的發展と見た事である。これは明に現代社會主義の理想である。その意味に於てサン・シモンは空想的時代から科學的時代へ一步進んで來たものと言へる。

けれども、彼にはまだ多分の空想がある。先づ彼は歷史の決定的要素、即ち歷史の進行を決定するものを、科學と見てゐる。これは明に「空想的」である。吾々現代の社會主義者にとつては、歷史の基礎として生產力の發達がある許りである。從つて、科學とか思想とかが社會革命を起すのではなく、生產力の發達が作用するのである。この生產力の發達と共に、社會の階級に變化が生じて來る。それが現代ではブウルジョア階級とプロレタリヤ階級の二つになつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て現はれてゐる。この兩階級は必然的に階級鬪爭を行ひ、遂にはプロレタリヤが勝を占めて社會變革を行ふ。だから社會革命の中心となるのはプロレタリヤだが、その變革の基礎は生産力の發達である。これが現代社會主義の歴史觀である。所がサン・シモンは、それを科學に求めてゐる。故に未だ空想的である。然しサン・シモンは他方に於いて科學的な社會觀を持つた。彼のフランス革命に對する說明を見ると、それが現はれて來る。サン・シモンは一七八九年及び一七九三年の革命は單に政治的變革ではないと考へた。單に人及び市民の諸權利を理論として紙上で叫んだ宣言ではない。それは新しい社會的時代の出現であり、新興階級の權力掌握である。この新興階級とは何か。先づ、サン・シモンは、僧侶階級と、これとよく一致する貴族階級とが歴史上に爲した役を語る。是等の階級は時代と共に不要になつた。社會的に何ら有用な仕事をしなくなつた。そこで革命と共に新しい階級即ち産業者階級が勃興した。この産業者階級といふのはサン・シモンにあつては甚だ混亂した概念である。この階級を吾々は今日ブルジョア階級と言つてゐる。然しこのブルジョア階級は當時にあつては生産的であり有用であつたし、且つプロレタリヤは漸く生れた計りであつたので、サン・シモンは、産業者階級の中に種程な性質を含ました。即ち、同時に勞働者であり企業家であり、産業的組織であるブルジョア階級といふべきものであつた。更にこの産業者階級の外にサン・シモンは社會に有用なる者として、藝術家と學者を見てゐる。これは更に彼自身の言葉に依つて詳しく研究しよう。次に引用する文は、これがためサン・シモンが陰謀罪の嫌疑をうけたものである。「吾々は次の樣な場合を想像して見よう。今フランスが忽ちにして第一流の物理學者、化學者、生物學者、數學者、詩人、畫家、彫塑家、音樂家、文學者、機械工業家技師、兵器家、建築家、醫者、外科醫、藥劑師、船員時計師、銀行家等各五十人、及び第一流の商人二百人、農夫六百人、鍛冶屋、染物屋、工場主、裁縫師、運送業者、印刷業者、金屬工業家、左官、大工、炭屋、錠前屋、等各五十人、その他以上に洩れた諸職業の第一流の者百人――要するに第一流の學者、藝術家、勞働者、三千人を一時に失つたとせよ。

「これらの人々は根本的に最も生産的な佛蘭西人であり、重要な生産物を提供し、國民に最も有益な勞働を掌り、科學藝術及び工業に於いて國民を生産的にする彼等は實際に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フランス社會の花であり、この國に最も有益であり、榮譽を齎し、その繁榮と文明とを促進せしめる。今フランスが彼等を失へば、フランスは魂なき肉體となり、忽ち他の競爭國民に對して劣れるものとなるだらう。そしてこの損失が償はれず、一人でも取戻さない限り、フランスは劣等狀態に止まらねばならないだらう。

「更に別な假定を作つて見よう。フランスが科學藝術及び工藝に於ける天才者を全部保有して居りながら、一日の中に、王の弟樣アングレエム公、ブルボン公、アンダレエム公夫人、ベリイ公夫人(以下略す)を失つたとせよ。尙その上に高位顯官、國務大臣、國家議員、元帥、大僧正、僧正、僧侶、知事、副知事、官吏、裁判官等の全部、土地所有者中の富裕な者一千人を失つたとせよ。

「此の如き異變はフランスを悲しませるに相違ない。何故ならフランス人は善良であり、かくも多數の同胞の突然の死を平氣で眺めてゐる事は出來ないのだ。然し、假令三萬人の高位顯官の喪失と雖も、彼等國民には只感傷的な苦痛を與へるに過ぎない。國家にはそれがため何等の政治的損害は起らない。

「何故に然るか、それは、この空席を充す事は實に容易だからである。諸侯の仕事を、アングレエム、オルレアン、ズウルボン諸侯(以下略す)に劣らず立派にやつてのける者はフランス人中幾らも居る。城内の客間は死んだ高位顯官の地位にいつでも就ける宮人で充滿するであらう。軍隊中には現在の元帥と同樣に立派な隊長である兵卒が何人でも居る。國務大臣に値してゐる使用人の如何に多い事よ！現在その職にある知事副知事の部局の仕事を處理し得る官吏の如何に多い事よ！　現在の裁判官と同樣に善良な法律家である。辯護士の如何に多い事よ！(中略)

「フランスの繁榮は、科學藝術及び工藝の進步の結果及び効果にのみ關してゐる。高位顯官等々(中略)は科學藝術工藝の進步に對して何ら直接に働いてゐない。貢献する所か、害を及ぼしてゐる。(中略)彼等は國民に依つて拂はれる租稅から、任命、年金、賞與、賠償等の名目の下に、國民には無益な彼等の仕事に對する報酬として、年々、三四百萬法を天引してゐる。

「この假定は現下政治問題の最重大事を明白にする。この假定は一目して事實の全體を見得る見地にある。それは假令間接ではあるにせよ、社會組織が不完全なるを明白に證明してゐる。即ち人間がまだ暴力や欺瞞に依つて支配せら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れて居り、人類が（政治的意味で）まだ不道德に陷つてゐることを、明白に證明してゐる。

「社會に對して積極的に有益な勞働を提供し　社會に何ら負擔をかけない、唯一の人達である學者藝術家工藝家が、多少とも無能な頑迷者流に過ぎない諸侯とかその他の支配者に服從させられてゐる限り、

「政治を行ふ者が、毎年租稅の半分を自分達で分け合ひ、被治者に對して有益な方法で個人的に得たのでない、取立金の三分の一も使はない限り、

「國民が根本原理として、貧乏人は金持に對して寬大でなければならないことを容認して居り、從つて、貧乏人が大金持の無駄づかひを增加するために、その必要費の一部分を每日奪はれてゐる限り、

「無智、迷信、怠惰、金にあかせた快樂等が社會の最高位の人々の頭分を形成し、有爲な、儉約な、働き手の人々が奴僕或は道具として使用されてゐる限り、

「この假定は、現在の社會が實際顚倒した世界であることを示す。」

以上の如く、サン・シモンは社會に有益な人々として、學者藝術家產業者をあげてゐる。そして是等の人々が社會の經濟的根底をなすべきものであるとなした。是で見れば彼の社會觀は、現代の社會主義のそれに甚だ近い。その意味に於て、彼は「空相的」にあらずして「科學的」と言ひ得る。只、彼の產業者階級といふ概念は甚だ混亂して居る。彼は今日の資本家と勞働者をごつちやにして、それを一つのものだと見てゐる。だからフランス革命は貴族僧侶に對して產業者階級が支配者となつたといふ事は理解した。然しそれがブウルジョア革命であり、尙その外にプロレタリア革命があるといふことは理解出來なかつた。この點が吾吾から見て「空想的」である。

尙その上に、サン・シモンの空想的特徵としては、彼が善き支配者、爲政者に訴へんとした事である。社會の下積みになつて搾取されてゐる（彼が搾取を認てゐることは、前の引用文で解る）階級の革命的行動に訴へずに、一人の支配者に訴へてゐる。次に第一執政官ナポレオン・ボナパルトに送つた書翰を示す。

「第一執政官殿、

私は貴君に私の著作を送ります。餘り浩澣なものではありませんけれど、それを思索するために、私は生涯の大半を盡した事を、貴君が知られても、驚きはなさらないでせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

う。私は貴君がこの著作を立派なものだと、お認めになるのを望みます。且又、敢て言へば、貴君は私の著作を判斷し得る、當代唯一の人であると考へます。貴君がこれに對して下される判斷を、私が知らずに過すことのない様にして下されば、大變嬉しく思ひます。

この手紙に署名するに當り、その住民が忽ちにして貴君の命令の下にある地球上の一角に居る私は、直接に貴君の保護の下に身を置くの自由を持ちます。」

尚サン・シモンの思想の今一の特殊性に就いてのべる。それは彼の科學的な思想には宗敎的性質が加味されてゐることである。前述した樣に彼は社會變革の當事者となるべき革命的階級を考へることが出來なかつた。そこで、人々に神祕的宗敎的な熱情を吹き込んで、社會改良を眞に人間の禮拜の的にせんとした。サン・シモンのこの消極的な方面は後に彼の弟子に依つて特に强調せられた。

自分はユバアル氏の書いたサン・シモンの臨終の記錄を次に引用しよう。

「死が急に近づいて來た。――六時に、醫師のバイリ氏が痛むかどうかとサン・シモンに尋ねた。――いや、と彼は答へた。(中略)彼は一寸考へ込んで、それから周圍に集つてゐる人々に、側に來て坐る樣に願つた。室にあつた、ロドリイグ、バイリ・レオン・アレヴィ氏達は直に彼の願に從つた。すると、臨終の吐切れ吐切れの聲で、而も脈は冷えて行くのに、眼をとぢて、サン・シモンは最後の力をこめて、次の樣に言つた。――

『諸君、十二日前から、私は諸君の事業に對する努力の結合を、出來るだけ立派にする方法を諸君に示さうと思つてゐました。そして三時間前から、この點に關して私の考への要點を作らうとしました。今、私が言ひ得る事は、十分結合された努力は最大の成功を得べき時代に、諸君が到達したといふことです。林檎は熟した。諸君はそれを摘まねばならない。私の仕事の最後の分(彼の著新基督敎の事)は恐らく悪いものとされたであらう。中世の宗敎制度を攻擊するに當つて、吾々は一つの事を事實的に證明した。即ちその宗敎制度はもはや實證科學の進步に伴はない、といふことです。然し、宗敎制度が亡びて行くと決論するのは誤つてゐます。それは只科學と一致しなければならない。繰返して言ひますが、林檎は熟した、諸君はそれを摘まねばならない。第二版の出版後四十八時間後には、吾々は政黨となるであらう。』

別科 最新式速記術

新聞學文章講義

全科十ヶ月卒業

葉書で御申込あれば無代にて直ちに見本をお送りします

□戰端は正に開かれた、貧しき者の唯一の武器は筆の力である。吾等は先づ筆の力に依つて富の權力に向けねばならない。

□本講義錄は世間にザラにある幼稚な大學や中學の講義錄と全く選を異にしてゐる、斯道の大家に依り、專門的に新聞の學術及實際編輯を懇篤に詳說したものである。本會を卒業せる數百の士は、目下各新聞社に就職して、斯界のために大活動をつゞけてゐる。

東京市下谷區
谷中眞島町一

大日本新聞學會

振替東京三一六三
電話下谷五二七〇

社會主義研究

十一月一日發行

インタナショナル研究號

定價一部三十錢稅一錢

市外大森入新井

社會主義研究社

前衞

十一月七日發行

ロシア革命記念號

定價一部三十錢稅一錢

市外大森入新井

前衞社

無產階級

十一月七日發行

ロシア革命記念號

定價一部三十錢稅一錢

市外代々幡町幡ケ谷四〇

無產階級社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

エ・トルラア作

黒田禮二譯

表現派代表戯曲 轉變

獨逸表現派の奇才エルンスト・トルラアは革命的な情熱と豊かな詩想を持つ天才である。歐洲大戦が齎した惨苦を痛感した彼が戦争を呪ひ、軍國主義を否定して、自由と平和と世界同胞の理想に燃ゆる社會革命劇がこの戯曲『轉變』である。表現派の代表戯曲として全歐洲に謳はれたこの傑作は黒田氏の麗筆によつて邦譯され、美裝を凝して出た。表現派の藝術を知らんとする者の必讀の好著である。

最新刊

菊半截新裝
神原泰裝幀
定價一圓三十錢
送料二十錢

在獨 黒田禮二著

蝙蝠日記

新しい革命獨逸の苦悶と憂欝と希望とをこのやうに生々と描き得た通信は世に現はれてゐない。表面的な政治的事實に捕はれたり、數字を無意味に羅列したり、新しいことでも價値のない事實を仰々しく竝べて得意がつてゐるのとは違つて、著者の深刻な社會心理的觀察と流麗な藝術家的取扱ひとを以て紹介された獨逸は懷しく生動してゐる。『解放』誌上に連載して潮の如き歡迎を受けた本書は出た。

最新刊

背クロース菊半截
裝幀高雅上製
定價一圓九十錢
送料二十錢

東京神田今川小路
大阪市三休橋南詰

大鐙閣

振替 東京三一八 / 大阪二七一五五

電話 東京・九段一三二三 / 大阪・南一八〇三

前號目次

現實革命と藝術家(題言)……
昨日と今日……
奴隷の反逆……
レニン論……
ボルシエヴィスト動く……
レニンの實驗……
智識階級と無智識者の鬪爭……
社會革命黨裁判に就て……
アナトオル・フランスへ……
（以上）マキシム・ゴルキイ
アナトオル・フランスの來露を促す……ソヴィエット政府
マキシム・ゴルキイと露西亞革命……カアル・ラデック
女詩人(詩)……村松正俊
敵を呪ふ詩(詩)……松本淳三
五九郎の代數……武林無想庵
傍人主義者……青野季吉
□シベリヤ通信……富永宗四郎
□世界欄──地方欄──聳人……
□社會主義講座……

編選後記

十一月號のロシア革命記念號は不意に發賣禁止を喰つた、その結果十二月號は休刊した。厄害はます〳〵僕達の結合を强め、僕達の士氣を鼓舞するだけである、僕達は一九二二年を迎へて、革新の意氣を以てたつた、本年度に於ける僕達の戰術は最早畫策された。その成果は讀者諸君の力强い聲援と團結にあることを、忘れないでほしい。今年はいろ〳〵な意味に於て、結合を强め、結合を貫く精神を生かすつもりである。

その意味に於て編輯者は內容を嚴選すると同時に、發行日の精確を期するつもりである、いつも中旬でなければ讀者諸君の手に屆かつた赤帶の雜誌は一日の發行日にはかならず諸君の眼にふれるようにするつもりである。

僕達は知るべきもの、知るべからざるもの、すべてを知つた。一九二二年に於ける僕達の仕事はその上に築れる編輯上その他のことについては次號に於て悉しく發表するつもりである。

定價　一部三拾錢◇半年前金一圓八拾錢◇一年前金三圓六拾錢御註文はすべて前金のこと◇代金の領收は雜誌發送を以てする◇送料內國壹錢外國四錢

廣告　廣告及廣告料については直接本社へ問合せを乞ふ

宛先　寄贈、通信購讀申込及び送金、其他本誌に關する一切の御用向書籍雜誌等の寄贈は凡て「種蒔き社」宛

締切　每月五日

大正十一年十二月廿八日印刷納本
大正十二年一月一日發行

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行人編輯人 印刷人　今野賢三

東京市神田區今川小路一丁目一番地
印刷所　同工社

東京府下千駄ヶ谷穩田百一番地
發行所　種蒔き社
振替口座東京五九三八七

大賣捌　東京堂　上田屋　北隆館　至誠堂　東海堂

種蒔く人　第三年第三卷第十五號（大正十一年十二月一日第三種郵便物認可）大正十一年十二月二十八日印刷納本　大正十二年一月一日發行

【本號定價三十錢】

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

種蒔く人

第三年第三卷第十五號（大正十年十二月一日 第三種郵便物認可）
大正十一年十二月二十八日印刷納本
大正十二年一月一日發行

【本號定價三十錢】

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正十年十二月一日（第三種郵便物認可）
大正十一年十月廿八日（印刷納本）
大正十一年十一月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA